



渡邊久米太郎著

# 國憲通論

(非賣品)

國憲通論目次

緒言

第一天皇編

總論

皇位

憲法條文

第二臣民權利編

總論

臣民權能

憲法條文

第三統治機關編

總論

議會

憲法條文

政府

憲法條文

裁判所

憲法條文

第四統治權作用編

憲法上大權

立法

司法

行政

條約

國憲通論自序

立憲政體ニ隨伴セル政黨政社ナル政治的團躰ハ其國憲制定

前ニ於テ既ニ發達シタルモノナレトモ其團躰ノ立憲的動作

事實ニ看タルハ實ニ近日ノコトトス而シテ曩日彼政友會ノ組

織成リテヨリ政海嶼ニ活氣ヲ添エ漸ク其實ヲ得ルニ近アラシ

ク此時ニ於テ其政海分子ニ付瑣細ニ其腦腑ヲ分拆セハ殆ン

ト國憲ノ那タルサエ辨セサル無資格者ノ多キヲ發見スルニ驚

カサルヲ得ス是蓋其實施ノ日猶淺キト其本來ヲ研究スルナク

唯是レニ盲從雷同シタルノ至ス處トス然レトモ苟モ政海ニ樹

ツモノハ其大躰ニ於ケル理論位ハ理解シ得ルモノナラサルヲ

得ス然ルニ其如斯經歷ハ正ニ將來ニ於テモ因襲的慣例タルニ

至ルノ疑アリ余茲ニ所感アリ一介白面ノ書生敢而潛越ノ咎メ

ヲ覺悟シ以テ自家稼業ニ於ケル喫煙時間ヲ節約シ聊カ國憲ノ

特45

471



概念ニ就キ畧解ヲ試ミ以テ其未ダ理解シ能ハサル者ノ爲メニ  
自悟ノ導火タラントス然レトモ余ノ淺學薄識到底其成ヲ期シ  
雖キモ亦幾分カ社會ヲ裨益スルアラハ幸甚ノコトトス  
本冊ハ購讀ヲ煩サス希望者ニ頒與スルヲ本旨トスルヲ以テ非  
賣品トシ自費ヲ以テ出版ス然レトモ余ノ薄資固ヨリ其負擔ニ  
堪エス余カ此企圖ニ對シ知己諸彦ノ贊助ヲ得其素志ヲ遂クル  
ヲ得タルハ余ノ大ニ感謝スル所ナリ  
本冊ハ短時日ニ於テ編綴シタルヲ以テ其完成ヲ欠クハ固ヨリ  
原稿訂正等ノ餘暇ナク上梓シタルヲ以テ亦甚タ不文ナリ讀者  
夫レ之レヲ諒セヨ  
明治三十四年一月

渡邊 天外 述

## 國 憲 通 論

渡邊久米太郎著述

### 緒 言

國憲ヲ研究スルニ各國憲法ヲ參照比較シ又ハ憲法歴史ヲ探究討尋スル等甚必要  
ナリト雖モ本論ノ主旨トスル處ハ深遠且高尚ナル法理ヲ研究スルニ非スシテ普  
通ニ認メテレタル學說ノ大要ヲ平易ニ説明シ普通人ニ國憲ノ何タルヲ承認セシ  
ムルニアルヲ以テ其範圍ヲ帝國憲法ノ一斑ニ限定ス亦其帝國憲法ヲ説明スルニ  
モ法文解釋法ヲ採ルト法文ニ據ラス專ラ法理ニ依ルトニ方法アリテ二者共ニ必  
要ナルモ此小冊ニテ何レモ充分ニ説明スルヲ得ス故ニ本書ニ於テハ全牀ノ法理  
ヲ通論シ傍法文ニ付畧解ヲ爲スモノトス然レトモ本書ハ彼ノ政治上ノ利害得失  
ヲ混入シテ解釋ヲ爲シ遂ニ憲法ノ精神ヲ失セシムルカ如キ變則的ノモノニ非ス  
シテ近世最モ發達進歩シタル法理ヲ簡易ニ説明スルモノトス  
帝國憲法ヲ説明スルニ當リ順序トシテ其前知條件トモ稱ス可キ公法國家國牀政

躰等ノ概念ニ付畧述シ終リニ憲法ノ定義ヲ説明スルモノトス。

### (一) 公法ノ概念

公法トテフ問題ハ學者間ノ高尙ナル一疑問ニ屬シ本書ノ範圍ヲ逸スルヲ以テ茲ニハ唯其大躰ニ付汎論セム凡ソ法トハ事物ノ秩序ヲ云フナリ換言セハ事物ノ相關聯シテ發生スルコト即チ原因結果ノ關係ヲ云フ而シテ此關係ハ自然界ニモ人類界ニモ一般ニ通スルモノニシテ自然界ノ關係ハ自然力ニ依リテ支配サレ人類界ノ關係ハ人爲力ニ依リテ支配サル此人類界ノ關係中主權者ガ人類行爲ノ規則トシテ認了シタルモノハ則チ茲ニ所謂法ナリ

而シテ學者此法ヲ公法私法ノ二ニ區別スルヲ普通トス法律ノ實務ニハ二者ノ區別ヲ要セサルモ秩序的ニ法理ヲ研究スルニ於テ此區別ヲ明瞭ニスルヲ要ス然レトモ此區別ヲ學理的ニ説明スルハ法理學ノ範圍内ニテ本書ニハ唯憲法ハ公法ノ一部ニ屬スルヨリ公法ノ概念ヲ説明スルニ止ム

通常公法ノ定義トシテハ公法トハ國家ト一個人トノ關係ヲ規定スル法則ニシテ私法トハ一個人ト一個人トノ關係ヲ規定スル法則ナリト云フ之レ單ニ事實上ノ説明ニシテ正確ナル論法ニアラス其本來ノ性質ヲ言ヘハ權力服從ノ關係カ平等タルト然ラサルトニ依リテ岐ル、モノナリ則チ權力服從ノ關係ヲ規定スルヲ公法ト云ヒ平等ノ關係ヲ規定スルヲ私法ト云フナリ然ルニ事實上服從ノ關係ハ國家ト個人トノ間ニ於テノニ存在スルヲ以テ單ニ公法ハ國家ト一個人トノ關係ヲ規定スル法則ナリト定義スルニ至レルナリ然レトモ之レ其本質ヲ究メスシテ唯事實ニノミ依リタル速斷ナリトス

### (二) 國家ノ概念

國家トテフ語辭ハ通俗ニ種々ノ意義ニ使用セラレ誤解ヲ爲スノ恐レアリ則チ或有形ナル國躰ヲ指稱スル場合アリ又或ハ無形ナル權力ノ主躰ヲ名ツケテ稱スル場合アリテ互ニ相矛盾スルニ似タリト雖モ之レ猶ホ人ト云フニ有形ノ人ヲ指スト同時ニ權利ノ主躰タル無形ノ人格ヲ示スト同一一般ニシテ決シテ支障ナシ唯其語辭使用ノ場合ニ依リ適當ノ意味ニ解スルヲ要ス而シテ或有形ナル國躰ヲ指ス國家トハ寧ロ國家學ノ問題ニシテ公法ノ法理論トシテハ無形ナル主權ノ本躰ヲ云フニアリ然レトモ國家ヲ以テ國躰ト認ムルハ通俗ノ解釋ナルヲ以テ此方面ヨリ説明セハ國家トハ一定ノ土地ヲ基礎トシ多數ノ人民カ其土地ニ於テ共同ノ生活ヲ爲シ唯一ノ主權之レヲ統治スルモノヲ云フ此説明ニ依

レハ國家ニハ土地、人民、主權ノ三要素アルヲ要ス以下順次畧述ス

(甲) 土地

土地則チ領土トハ國家ノ有形的存在ノ基礎ニシテ國家ハ一定ノ土地ヲ自己ノ領地ト爲スニ依リ成立ス。往古部落的組織ノ時代ニ於テハ一定ノ土地ヲ有セス水草ヲ逐フテ漂流シタルモ近世ニ於テハ國家ハ必ス土著セル一定ノ土地ヲ以テ立脚ノ基礎ト爲スヲ要ス

(乙) 人民

國家ト云フ以上ハ必ス多人數ノ團體アリ則チ國家ハ其共同生活ヲ爲スカ爲メ多人數カ團體ヲ爲スニ於テ成立スルモノナリ而シテ此人民ノ集合スルハ或ハ人種、風俗、言語、宗教等ヲ同一ニスルニ由リ或經濟又ハ衣食ノ便宜ノ爲メニスル等其原因一様ナラサルモ此ハ社會學ノ研究ス可キモノナルカ故ニ此ニハ贅セス然レトモ唯多人數カ漫然同一ノ土地ニ集合スルノ事實ノミニテハ未タ國家ヲ成立セス必スヤ共同的生活ノ爲メ集合スルヲ要ス而シテ其共同目的ヲ表彰シ其秩序ヲ維持スルハ則チ主權ナリ

(丙) 主權

若シ多人數ノ集合カ各自ノ目的ヲ有スルニ止リ共同生活ノ目的ナク又各人平等ノ權力アリテ一定ノ權力ニ因リテ支配セラル、コトナクシハ其團體或ハ社會ヲナスアルモ國家ト稱スルヲ得ス其國家ノ國家タルニハ必ス社會カーノ主權ニ據リ統一セラル、ニ依テ始メテ成立スルナリ之ヲ公法上ニ於テ國家ハ主權ノ主體ナリト余カ定義スル所以ナリ而シテ此主權カ何レニ歸スルヤノ問題ニ付テハ各國其狀態ヲ異ニシ或ハ無形ノ團體夫レ自身主權者タルアリ或ハ人民ノ一階級カ主權者トシテ他ノ階級民ヲ制服スルアリ亦或ハ唯一特定ノ人カ君主トシテ主權ヲ掌握スルアリ然レトモ此等ヲ異同ハ其國ノ沿革現象ニシテ國家ハ主權ノ本體ナリト云フ原則ハ法理上一般ニ認ムル所ナリ

(三) 國體ノ概念

國體ハ統治主權ノ那邊ニ存在スルヤニ依リ區別セラル、モノナリ而シテ其統治主體ノ存在ハ各國歴史及ヒ法則ニ依リ定ルモノニシテ一定ノ種類ニ限定ス可キモノニ非ス唯歴史ノ結果ヨリ觀察セム左ノ三種ノ國體アリ

(甲) 共和制度

共和制度トハ國家ヲ組成スル人民ノ全體カ主權

ノ本躰タル國躰ヲ云フ

(乙) 貴族制度  
貴族制度トハ國民中ノ優等種族カ劣等ナル他ノ階級民ヲ威服スル組織ヲ云フ

(丙) 君主制度  
君主制度トハ唯一特定ノ人ヲ以テ主權者ト爲シ之レヲ主權ノ本躰トナスモノニシテ我大日本帝國ノ如キハ實ニ此國躰トス

茲ニ注意ヲ要スルハ全地球中純粹ナル君主國躰ハ特ニ我國躰ニ於テ觀ルモ他邦ニハ此事實ナシ我帝國ハ建國ノ際ヨリ日本民族カ特定ノ君主ニ服從シタルモノナルモ他ノ諸國ニ於テハ或ハ最初ハ共和制度ニシテ後ニ君主制度ト變シ或ハ貴族制度ニシテ後ニ君主制度ニ變シタルモノナリ之レ帝國臣民ノ宇内ニ誇勝スル處ナリ

(四) 政躰ノ概念

政躰トハ主權運用ノ形式ヲ云フナリ而シテ一定ノ國躰ニハ必ス一定ノ政躰アルニ非ス君主國躰ニテモ政躰ヲ別異ニスルアリ或ハ共和國ト君主國ト政躰ヲ一ニスルアリ而シテ政躰ハ各時代ニ依リ相違スルヲ以テ現今ノ政躰ハ其憲法ニ依リテ説明スルノ外ナシ

國會ヲ開設シ國民ヲシテ立法權ニ參與セシメ獨立ノ法衙ヲ行政官府ヨリ分離シテ司法權ヲ行ハシメ此國會ト裁判所ト政府ト三個ノ機關ヲ以テ國權ノ働作ヲ分立司掌セシムルヲ以テ立憲政躰ト云フ彼ノ憲法ナル法典ヲ指シテ云フニアラサルコトヲ注意スルヲ要ス而シテ我帝國ハ純正ナル君主國躰ニテ亦立憲政躰ナリトス

(五) 憲法ノ概念

本書ノ主論タル憲法ノ定義ニ至リテハ區々ニシテ一定セサルモ憲法トハ國躰政躰ヲ定ムル所ノ大原則ナリト云フヲ以テ適當ナリトス而シテ各國其政躰國躰ニ由リ又ハ憲法ノ由來ニ依リ學者間ニ於テ憲法ノ定義ヲ異ニス今其一ニヲ示サム

英國ノ憲法學者ダイシ―氏曰ク憲法ハ主權ノ分配若クハ使用ノ方法ヲ直接又ハ間接ニ規定スル規則ナリト云ヒ米國ノク―レ―氏曰ク憲法ハ主權ノ依テ以テ執行セラル、所ノ原則及條項ノ一躰ナリト云ヒ燭乙ノロ―イン―氏曰ク憲法ハ國躰及ヒ元首ト臣民トノ法律上ノ關係ヲ規定スルモノナリト云フ是等ハ皆其觀察スル方面ニ依リ各定義スル所ヲ異ニスルナリ

憲法ハ其形式ヨリ成文法典不成文法典ト區別シ其制度ノ手續ヨリ欽定憲法國約憲法ト區別シ其改正ノ手續ヨリ硬性憲法軟性憲法ト區別シ得ルモ帝國憲法ノ説明上餘リ必要ニアラサルヲ以テ之レヲ省略シ唯帝國憲法ハ成文憲法ニシテ欽定憲法タリ而シテ硬性憲法ナリト心得ルヲ要ス

憲法ヲ法律ノ一種トナスノ制度軟性憲法ト特別ノ法典トナスノ制度(硬性憲法トノ區別アリ我帝國憲法ハ特別法典ノ制度ニシテ憲法ト他ノ法律トヲ區別シ憲法ハ法律ノ上位ニアルモノトセリ故ニ法律ヲ以テ憲法ヲ變更スルコトヲ得ス憲法ノ改正ハ立法ノ手續ニ依ラスシテ立憲ノ權ト立法ノ權トハ之ヲ區別スルナリ反之憲法ヲ以テ他ノ法律ト同一視スル制度ニ於テハ一般ノ立法手續ハ又憲法ヲ制定スルノ手續タルナリ

如上陳帝國憲法ハ特別法典ノ制度ニシテ君主ノ權力ニ依リ制定シタルモノナルカ故ニ其之レカ改正變更モ君主ノ發議アルニ非サレハ普通法典ノ如ク帝國議會カ發議決議スルヲ得ス之レ憲法第七拾三條ニ規定サル、所ニシテ而シテ其君主ノ大權ニ依リ發議アルモ其議決ノ手續亦普通議決方法ニ由ラス鄭重ニシテ全員三分ノ二以上ノ議員ノ出席ヲ以テ其三分ノ二以上ノ同意アルニ非サ

レハ決議スルヲ得サルノミナラス攝政ヲ置カル、間ハ主權行使上事實不能ノ狀跡ニサルヲ以テ憲法ヲ改正變更スルコトヲ禁セラレタリ猶ホ憲法第七十三條及第七十五條參照ス可シ

以上憲法ヲ説明スル前知條件トモ稱ス可キモノ、大畧ヲ説明シタルヲ以テ以下本論ニ入りテ説明ヲ試ム

## 第一 天皇論

### 總論

憲法ハ統治ノ關係則チ統治ノ主體客體及ヒ其機關作用ヲ規定スルモノナルコトハ既ニ説明シタリ而シテ統治ノ主體トハ統治權ノ存在スル所ヲ云フモノニシテ此統治權ハ絶對的無限ノ万能唯一威力ニシテ分割スルコトヲ得ス又能ハサルコトナシ之レ統治權ノ法理ニシテ其統治權ノ那邊ニアルヤハ各國歷史上又各憲法上種々ナル議論アレトモ我帝國ノ如キハ君主カ統治ノ主體タルコトハ明白疑フ可カラサルナリ然レトモ歐洲ニ於テハ君主カ主權者タルコトニ付數説アリテ或ハ主權ハ國民ニアツテ君主ハ唯其權力ヲ有形ニ代表スルモノトスルアリ或ハ君

主ハ唯主權行使ノ職分則官職視スルアリト雖モ主權カ唯一特定ノ君主ニ存シ國民仰キテ以テ統治ノ主體ト爲スニ非ラサレハ純粹ナル君主國ト稱スルヲ得ケルナリ我帝國ハ歷史上國家ヲ成ス中心常ニ唯一特定ノ皇位ニアリテ嘗テ國民ヲ以テ統治ノ主體ト看做タルコトナシ此歷史上ノ觀念ハ恐クハ今后幾世紀ヲ經過スルモ異動ナカラム

歐洲ニ於テハ君主ト國民代表ノ國會トノ二者ヲ以テ統治權ノ主體ト爲スノ說行ハル此說ニ據ル時ハ國會ヲ以テ統治主體ノ一部トシ君主及國會ノ二者ヲ以テ主權ノ主體ヲ爲セルモノト論定スルナリ然レトモ我憲法ノ法理トシテハ主權ハ唯一特定ノ君主ニアリテ帝國議會ハ統治ノ機關タルモ決シテ主權ノ主體タルモノニアラス

### 皇位

皇位トハ君主ノ位ト謂フ意味ニテ帝ト謂ヒ天皇ト謂ヒ又ハ王ト稱スルモ其意味相同シ然ルニ學者間歷史上ノ關係ヨリ帝號ハ王號ヨリ貴重ナリト云フモノアリト雖モ法理上ヨリ云フトキハ別段之レカ區別ヲ爲スノ必要ナシ我國民ハ純粹ナル君主國ニテ天皇ヲ以テ統治ノ主體ト爲スモノニシテ亦明カニ

憲法第一條ニ於テ大日本帝國ハ万世一系ノ天皇之レヲ統治スト明記セサルナリ而シテ天皇ハ唯一統治ノ主體タルノミナラス統治權ヲ行使スル主體タルナリ是亦憲法第四條ニ天皇ハ國ノ元首ニシテ統治ノ權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フト規定アル所以ナリ然レトモ此皇位カ統治權ノ主體タルハ憲法ノ條項ニ依リテ始メテ生シタルモノト誤解ス可ラス憲法ハ既ニ存在スル統治權ノ作用ヲ規定スルモノニシテ憲法ノ規定ナクトモ主權ハ君主ニアルナリ猶ホ此事ヲ明瞭ニセンカ爲メ憲法ノ前文ニ於テ國家統治ノ大權ハ朕カ之レヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ云々ト勅言シ玉ヒ其憲法ヲ待ツテ始メテ大權ノ天皇ニ歸シタルモノニ非サルヲ示サレタリ歐洲學者間ニ於テハ立憲君主政體ニ付種々曖昧ナル説明ヲ爲シ君主ハ或ハ主權者ノ如ク亦主權者ニ非サルカ如ク説明セリ彼ノ有名ナルチエール氏ノ如キハ君主ノ地位ヲ論シテ君主ハ統治スレトモ政治セス之レヲ立憲政體ノ本體ト爲スト言ヒ又白耳義ノ立憲君主政體ニ於テハ君主ハ統治權ノ主體ニアラス唯統治權ヲ行使スルノ職權ヲ有スルノミト是等ノ見解ハ我帝國憲法ノ解釋トシテハ採用ス可キモノニアラス今チエール氏ノ所說ノ如クセハ君主ハ明文上主權者ニシテ主



權ノ本躰タルモ主權ヲ行使スルノ能力ヲ有セス唯空位ヲ守ルニ止ルモノト云ハサルヲ得ス然レトモ權力トハ制服スル威力ヲ云フモノナルカ故ニ力ナキ權力ト云フカ如キハ首尾貫徹セサル誤謬ニ歸セン亦白耳義憲法論ノ如クセハ主權者ハ國民ニシテ國主ハ國民ニ代ハリテ主權ヲ行使スルモノタルニ過キス然レトモ君主ハ主權主躰タリ亦主權ノ行使者タリ單ニ主權ヲ行使スルノミニシテ主權者タル資格ナキモノハ共和政躰ニ於ケル大統領ノ如キモノニシテ君主ト稱スルヲ得サルナリ然レトモ彼歐洲ニ於ケル憲法ノ由來及ヒ國躰ニ於テハ我帝國ト其趣ヲ異ニスルヲ以テ彼國歷史上如斯究屈ナル解釋ヲ爲スノ必要アルモ我國躰ニ於テハ毫モ斯ル拘泥的ノ所説ヲナスノ要ナシ

我政躰ニ於テハ主權ノ主躰タル皇位ハ万世一系ノ皇統之レヲ繼承スルモノタリ帝國憲法第一條第二條即チ皇統ニ非ラサル限りハ皇位ヲ登祚スルヲ得ス又皇統ハ一系ニシテ分別變更スルコトナシ然ルニ歐洲諸國及ヒ東洋ノ或國ニ於テハ一系ノ血統ヲ以テ即位スルコトナク君位繼承法ヲ以テ民法相續法ト同一視シ自國君主ノ繼承者ナキトキハ他邦君主ノ血統ヲ迎ヘテ皇位ニ即カシメ特ニ其法理幼稚ノ時代ニ於テハ君主ト國民トノ關係ヲ地主ト小作トノ關係ト同一視シ其極皇

位ヲ繼承スルハ皇室ノ財産ヲ相續スルモノナリト誤解スルノ結果民法相續法ト皇位繼承法トヲ混淆シタリ之レ彼國歴史沿革上ノ理由ニ基ケル觀念ナルモ法理上妥當ヲ得タルモノニ非スシテ皇位ノ繼承ハ主權ヲ繼承スルニアリテ決シテ家督若クハ財産相續ノ意ニ非ストス

皇位繼承法ハ憲法第二條ニ於テ皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之レヲ繼承スト規定サレタルヲ以テ其詳細ハ皇室典範ノ條項ニ依ルノ外ナキモ之レヲ畧述セハ皇位ハ皇統ニ非ラサレハ之レヲ繼承スルヲ得ス彼ノ歐洲ノ如ク他ノ血統ヲ以テ繼承スルヲ得サルナリ而シテ假令宗祖ノ血統ニテモ男系ノ皇統ニ非ラサレハ繼承スルヲ得ス女子ニ依リ相傳セル皇統ハ皇位ヲ占ムルヲ得サルヲ以テ原則トス而シテ男系ノ皇統ニテモ女子ハ皇位ヲ踐ムコトヲ得サルナリ之レ我國歴史ニ反スルカ如キ感アリ古來或ハ女帝ノ登極セラレタル事例ナキニ非ス然レトモ之レ實ニ例外ニ屬スルモノナリ猶ホ巧妙ニ云ハト女帝ハ位ヲ攝スルノ意味ヲ以テ在位シ給ヒタルモノニシテ決シテ原則ニアラサルナリ而シテ皇位繼承ノ順位ハ長子繼承ノ主義ニシテ亦直系ニ傳フル法則トス其皇位ヲ傍系ニ傳フルハ實ニ止ムヲ得サル場合ニ限ルモノトス

茲ニ一書ス可キハ女子ヲ以テ皇統ヲ繼承シ得ヘキ制度ヲ採用セル國ニ於テハ女王配偶ナル困難ノ問題ヲ生ス彼ノ露國ノカザリン女王英國ノエリザベス女王ノ如キ頗ル賢明ナル君主ナリト稱スルモ其閨門治ラス東洋ニ於テモ其事例擲ナカラス常ニ女王君主ノ弊トシテ醜聞門外ニ出テ延テ政治上ノ亂擾ヲ來セル事ナリ然ラハ女王ニ配偶ナカラシメン乎之レ人倫ニ反スルノミナラス往々配偶アルニ優ルノ國患ヲ生ス於是英國學者ノ如キハ此問題ニ對シ實ニ巧妙ナル説明ヲ爲セリ女王ハ統治スレトモ支配セスト論シ女王ノ配偶ヲ外國ノ皇統ニ求メ皇配ハ王室ニ付テハ支配ヲ爲スモ其政治上ノ意味ニ於テハ臣民ノ一人タルニ過ギストセリ然レトモ我帝國ニ於テハ將來ニ於テ女子ヲ以テ皇位ヲ繼承セシメラルヽコトナキヲ以テ如上陳問題ヲ生スルコトナシ

以上ニ於テ主權ノ主牀ハ皇位ニアリテ皇位以外ニハ決シテ存在スルコトナキヲ説明シタリ而シテ皇位ハ須臾モ空シウス可カラス即チ主權ハ中斷スルコトナシ皇位即位ノ禮又ハ踐祚ノ式アル迄ハ皇位ハ空虛ナルモノト誤解ス可カラス皇位ハ即位ノ禮踐祚ノ式ニ依リテ取得スルモノニアラス是等ノ式禮ハ當然存在スル關係ヲ公示スル儀式タルニ止ルモノトス然レトモ或場合ニ於テハ事實上主權者

ニ於テ主權ノ行使ヲ爲ス能ハサル時アリ斯ル場合ニ我憲法ニ於テハ攝政ヲ置キ以テ主權ノ行使ヲ爲スモノトセリ則チ第十七條第二項ニ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フト規定アリ而シテ此攝政ノ制度ハ我憲法ノ規定ヲ以テ初メテ設定サレタルニ非ス歷史上既ニ存在スル處ナルモ歷史上ノ攝政ト憲法上ノ攝政トハ其名稱相同ウシテ其意味相違ス則チ歷史上ノ攝政ハ官職トシテ設置セラレ君主ノ政務ヲ補助スル一ノ機關タリシナリ故ニ攝政タルニハ必スシモ皇族ニ限ラス臣下ヲ以テ之レニ任スルコトヲ得タリ反之憲法上ノ攝政ハ天皇ヲ補助スル機關ニ非スシテ天皇ニ代ハリテ主權ヲ行使スルモノナリ換言セハ政府ノ一部ニアラスシテ皇位ノ一部トモ謂フ可キナリ然レトモ攝政ハ天皇ノ代理者ニアラス故ニ普通民法上ノ委任代理ノ關係ヲ生セス若シ天皇カ攝政ニ委任スルノ行爲能力ヲ有スルモノトセハ既ニ攝政ヲ置クノ要ナク亦憲法及皇室典範ニ於テ明カニ禁スル所ナリ夫レ如斯攝政ハ代理委任ノ關係ニアラスシテ憲法上直接ノ結果ナリ換言セハ天皇カ事實上主權行使不能ノ情牀ニアルトキハ憲法規定ノ直接結果トシテ必ス攝政ヲ設置スルモノナリ亦學者間ニ於テ攝政ヲ以テ民法上ノ後見人ト混同シ説明スルモノアルモ之レ其淺識ノ學說トス民法上ノ后見ト攝政トハ其事實目

的及形式ヲ異ニシ后見ハ無能力者ノ利益ヲ保護スル爲メニ設置スルモノニシテ親族上ノ關係タリ反之攝政ハ國家統治上ノ必要ヨリ設置スルモノニシテ一身ノ保護ノ爲メニ置クモノニ非サルヲ知ラハ其誤謬ノ説タルハ瞭然タリ

攝政ハ如何ナル場合ニ設置スルモノナルヤハ憲法第十七條於テ攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ルト規定サレタリ今之レヲ畧述セハ攝政ハ天皇カ未成年ナル時(天皇ノ成年ハ滿十八歳トス若クハ久キニ涉ル故障(日時ノ長短ヲ云フニ非ス)アリテ自カラ政務ヲ取ル能ハサル場合ニ於テ天皇トシテ統治權ヲ行フモノナリ而シテ攝政タル可キ人ハ通常皇位繼承ノ順位ヲ以テスルヲ原則トシ或場合ニハ配偶者ナキ女子ヲ以テ攝政トスルコトヲ得ルモノトセリ

亦攝政ヲ置クハ万止ムヲ得サル場合ナルヲ以テ憲法第七十五條ニ於テ攝政ヲ置ク間ハ憲法及皇室典範ヲ改正變更スルコトヲ得サルモノト規定ス

右ノ外我憲法ニ於テハ天皇ノ章ニ於テ本編ニ關聯スル規定アルモ皆之主權本來ノ大權ヲ規定シタルモノニシテ別段深キ説明ヲ要セスト信スルヲ以テ以下法文ニ付キ簡短ニ義解スル又無用ノコトニアラストス

第五條 本條ハ我政體ハ專制政體ニ非スシテ立憲政體タルコトヲ明示シタル

モノナリ專制政體ニ於テハ立法權ハ主權者ノ自由制定ニ任スルモ立憲政體ニ於テハ立法權ハ固ヨリ主權ノ一部ナルヲ以テ主權ノ自由意思ナルモノ之レヲ行使スルニハ必ス議會ノ協贊ヲ要スルナリ然レトモ立法ノ發議ハ獨リ天皇ニノミ專屬スルモノト誤了ス可ラス憲法ノ改正變更ノ發議權ハ勿論天皇ニノミ專屬スルモノナルモ立法發議ハ議會自カラモ發議シ得ルモノトス

第六條 本條ハ法律ノ裁可及公布遵守ノ効力ヲ生セシムノ事ヲ規定シタルモノニシテ而シテ本條規定ノ裁可權ノ反對トシテ不裁可權アリヤトノ問題ヲ生ス學者間ニ於テ異説アルモ既ニ裁可權アル以上ハ必ス拒否權ノ之レニ隨伴スルハ當然ノコトタリ唯各國ニ於テ議會通過ノ法律案ヲ拒否セサルヲ以テ立憲政體ニ於ケル君主ノ德義トシ之レヲ拒否セサルノ慣例タルナリ

第七條 本條ハ天皇ノ議會召集權ヲ規定スルモノニシテ議會ヲ召集スルハ固ヨリ天皇ノ大權ニシテ彼ノ議會自カラ集會スルカ如キハ憲法ノ認ムル處ニアラス既ニ召集ハ天皇ハ大權トセバ其之レカ開閉及ヒ停會休

會又ハ解散ヲ命スル亦天皇ノ大權ニ屬ス茲ニ注意ス可キハ衆議院解散ヲ命セラル、モ貴族院ハ停會スルニ止リ解散スルコトナシ之レ貴族院ハ性質上永久會議ニシテ解散ス可キモノニ非サルヲ以テナリ議會解散ノ由來ハ其始メニ於テハ懲罰的ノ性質ヲ有セシモ今日ノ法理論トシテハ解散ハ人民ニ判斷ヲ試ムルニアリ則チ反省ヲ爲サシムルニアリ而シテ一度此反省ヲ促スモ見込ナキニ猶之レヲ解散スルハ立憲政體ノ精神ニ違反スル行爲トス則チ同一問題ニ付キ再度以上ノ解散ヲ爲スカ如キハ非立憲的ノ行爲タル詭ヲ免カリス故ニ國務大臣タルモノハ大ニ茲ニ着意シ漫リニ解散ヲ奏請シ憲法ノ美ヲ殺クカ如キコトナカダシムヲ切ニ心懸ケルサヲ得ス

第八條

本條ハ緊急勅令ノコトヲ規定シタルモノナリ緊急勅令ト云ヒ其他ノ行政命令ト云ヒ法律ト云フ皆國家ノ意思ノ表示タルモノナルモ其形式的及實質的効力ノ相違ニ依リ其名稱ヲ區別スルナリ立法法律ノ外行政命令ニハ緊急命令法律ニ代ハル命令執行命令既ニ存在スル法律ヲ執行スル爲メノ命令補充命令警察命令及ヒ其他ノ行政命令ノ三種

アリテ本條ハ其中ノ緊急命令ヲ規定ス而シテ立憲政體國ニ於テハ行政命令ヲ以テ法律ヲ變更スル能ハサルヲ以テ原則トスルモ或場合ニ於テハ其例外トシテ行政命令ヲ以テ法律ニ代ハラシムルコトアルヲ示セルナリ然レトモ此緊急命令ヲ發スルハ國家自衛保護上万止ムヲ得サル非常ノ場合ニ限ラサルヲ得ス其既ニ發セラレタルモノハ必スヤ次會ノ議會ニ於テ承諾ヲ求メサルヲ得ス而シテ次ノ議會ニ於テ承諾ヲ爲シタルモノハ其命令ハ當然法律ノ効力ヲ有スルセ若シ承諾ヲ與ヘザルトキハ是亦當然其効力ヲ失ヒ原狀ニ回復スルモノトス然レモ其勅令ハ過去ニ遡テ効力アルハ無論ナリ然シ政府ハ其過去ノ行爲ニ對シテ德義上其責任ヲ免カル能ハサルモノトスルヲ憲法ノ美トス猶ホ茲ニ注意ス可キハ緊急勅令ニ對シテ次ノ議會ニ於テ承諾ヲ爲ス時ハ將來ニ向ツテモ法律ノ効果アルモノ、如ク論スルアリ現ニ帝國議會ニ於テ其實例アリ然レトモ之レ法理上正當ノ論トスルヲ得ヌ既ニ行政命令ヲ以テ法律ヲ改正變更スルヲ得サルヲ原則トシ其緊急勅令ニ同一ノ効果ヲ與スルハ非常ノ場合ニ於ケル例外タリ其例外タル緊

急勅令ニ對シ次ノ議會ニ於テ承諾ヲ求ムルハ將來法律トシテ効力ヲ生セシムルカ爲メニアラスシテ既ニ緊急勅令ニ依リ爲セシ行爲ニ對シテ承諾ヲ求ムルモノニシテ假令議會ノ承諾アルモ將來ニ向ツテ其効力ナキモノトスルヲ正當トス若シ議會ニシテ猶ホ將來ニ向ツテ法律ノ効力ヲ附與スルノ必要アラハ別ニ同一趣旨ノ立法ノ手續ヲ經ルヲ可トス之レ多數學者ノ唱同ニ反對セル余ノ主論ナリ

第九條 本條ハ行政命令中ノ執行命令及補充命令ヲ規定シタルモノナリ執行命令トハ既ニ存在スル法律ヲ執行スル爲メニ發スル命令ニシテ補充命令トハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ國民ノ幸福増進ノ爲メニ發スル命令ヲ云フ而シテ本條ノ命令ハ常用ス可キモノニシテ法律ヲ變更スルノ効ナリ緊急命令ハ變ニ處スルモノニシテ法律ニ代ハル効力アルモノトス

第十條 本條ハ官制ヲ定メ文武官ヲ黜陟シ其俸給ヲ定ムルコトヲ規定シタルモノニシテ固ヨリ天皇ノ大權ニ屬スルモノトス

第十一條第十二條 此兩條ハ兵馬ノ大權ヲ定メタルモノニシテ其天皇ニ屬スルハ固ヨリ當然タリ我國古ニ於テ或ハ之レヲ臣下ニ移シタルカ如キ觀ズルモ深ク歴史ヲ研究セハ單ニ臣下ニ委子タルニ止リ其大權ヲ移シタルモノニアラサルヲ發見セム

第十三條 本條天皇ノ外交大權ヲ規定シタルモノナリ別ニ説明ヲ要セス

第十四條 本條ハ天皇ノ戒嚴權ヲ規定シタルモノナリ戒嚴トハ外敵内變ノ事機ニ臨ミ常法ヲ停止シ司法及行政ノ一部ヲ軍事處分ニ委スルヲ云フ而シテ其要件則チ戒嚴ヲ宣告スル時場合効力區域及ヒ其手續ハ法律ヲ以テ定ムルモノトス則チ明治十五年勅令第三十六號ノ如キヲ云フ

第十五條 本條ハ天皇ノ司法權ノ一部ヲ規定シタルモノニシテ別段説明ヲ要セス

### 第二 臣民權利論

#### 總論

憲法第二章ハ統治權ノ客體ヲ規定シタルモノ則チ統治權ノ及フ目的物ニ關スル

規定ナリ而シテ其統治權ノ客體ハ領地及臣民ナリトス然レトモ治革上學者ハ種々ノ解釋ヲ爲セリ則チ統治權ノ客體ハ單ニ臣民ナリト云フアリ然シ乍ラ統治權ハ一定ノ土地 上ニ行ハレ其土地内ニアルモノハ臣民タルト外國人タルトヲ問ハス之レニ服從スルモノナルカ故ニ單ニ臣民ノヨリ以テ客體ナリト云フ可カラス亦或學者ハ土地ト臣民トヨリ成立スル社會團體ナリト云フモノアリ然シ乍ラ國家ノ外ニ社會團體ナルモノヲ認ムルヲ得ス亦從昔封建制度ノ行ハレシ餘弊トシテ統治權ノ客體ハ單ニ土地ナリト云フカ如キ誤解ヲ爲スモノアルモ之レ統治權ヲ以テ大ナル所有權則チ大地主權ト同視シタル誤謬ニ出テタルモノニシテ決シテ顧ミルノ價値ナキモノトス要之近世ノ法理ニ於テハ統治權ノ客體ハ一定ノ國土及一定ノ臣民トスルヲ以テ以下國土及臣民ニ付キ畧說ス

(一) 國土

國土領地トハ統治權ノ及フ區域ヲ云フ則チ其領地内ニ於テハ臣民タルト外國人タルトヲ問ハス又本國人ノ所有物件タルト外國人ノ所有物件タルトヲ論セス絶對的ニ其上ニ主權ハ行ハルモノナリ而シテ其本國臣民ハ免モ角外國人ニ對シ其主權ヲ行使スルハ一時便宜ノ爲メ臣民ト假認スルカ如キ理由アルニ

非ス主權ノ性質上主權ハ絶對的ニ國土内ニ行使サルヲ以テ其國土内ニアル

モノハ外國人ト雖モ其主權ニ服從セサルヲ得サルモノナリ

(二) 國民

國民臣民トハ國家構成ノ一分子ヲ云フモノニシテ臣民ハ絶對無限ニ其主權ニ服從スル義務アルモノトス故ニ國民タル以上ハ假設其身其領土ヲ離レテ外國ニアルモ猶ホ主權ハ行使サルモノナリ然レトモ我領土内ニアル外國人ハ其主權ノ行使サルノ區域内ニアルカ故ニ其主權ニ服從セサルヲ得サルモノニシテ絶對無限ノモノニアラス從ヒテ其領土ヲ離ルト同時ニ服從ノ義務ヲ免ルルモノナリ

臣民ハ主權ニ絶對無限ニ服從スル義務アリト言ハ、頗ル厭制ナルカ如キ感アルモ此方能主義ハ何レノ國体政体ニ於テモ主權ハ絶對ノ力ナリ臣民ハ無限ニ服從義務アルハ原則ナリ故ニ此原則ニ對シ憲法又ハ法律ヲ制定シテ服從ノ程度ヲ定ムルノ要アルナリ然シナカテ此服從程度ノ制定ヲ以テ統治權ノ制限ト誤テ不可ラス服從程度ノ制定ハ主權者ノ任意ニシテ單ニ統治權ノ洪範ヲ表示シ以テ臣民ニ服從ヲ促スニ過キサルナリ

既ニ總論ニ於テ説明スル如ク國權ト臣民トノ關係ハ絶對的服從ノ關係ニシテ臣民ハ國權ニ對シテハ絶對ニ服從スルモノナリ故ニ亦臣民ハ國權ノ保護ヲ受クルコトヲ得ルモノトス換言セハ臣民ノ國權ナル最高力ニ全然服從スルノ目的ハ國權ニ依リテ自己ノ安寧幸福ヲ保護セラレンコトヲ希望スルニ依ルナリ亦國家ハ臣民ヲ保護スルノ目的ヲ以テ國權ヲ行使スルナリ然ルニ其未タ法理ノ發達セサル時代ニ於テハ人ニハ天賦ノ自由權ナルモノ自然ニ存在シ國家ハ唯法律ヲ以テ之レヲ制限スルモノナリトセリ然レトモ之レ大ナル誤謬ニシテ服從ナクハ權利ナキコトハ高尙ナル法理論ヲ待タズ普通行爲ニ照考スルモ明白ナルコトニシテ敢テ辯明ヲ要セス而シテ論者ノ所謂ユル天賦ノ自由權ナルモノハ先天的ノモノニシテ人類カ末々人格ヲ有セス他ノ動物ト同一境遇ニアリシ時ノ獸爲發行ヲ云フモノニシテ後ニ論スル處ハ自主自由トハ大ニ其性質ヲ異ニスルモノトス夫レ然リ國家ハ臣民カ服從スルニ由リ國權ニ依リテ臣民ノ利益ヲ保護シ而シテ猶ホ國家ハ臣民ニ一定ノ權利法律ニ依リテ附與シ或程度ノ秩序ヲ害セサル限リニ於テ自己ヲ防禦スルニ由リ許容スルモノトス所謂余カ自主自由ノ權トハ夫

レ之レヲ云フナリ若シ臣民ニシテ此自主自由ノ權能ナクンハ彼ノ人格ナキ他ノ動物奴隸又ハ畜類ト同一般ナリ而シテ此ノ權能ハ國法ニ依リ許與スルモノニシテ自然ニ存在スルモノニ非サルナリ然ルニ世俗此ノ臣民ノ權能ナルモノハ先天的ノモノニシテ自然ニ存在スルモノ、如ク心得ニ其結果法律ヲ以テ國家ノ生存上臣民ノ利益ヲ保護シ或秩序ヲ維持スル爲メニ爲ス行爲ヲ目シテ此ハ天賦ノ自由ヲ害スルナリナト暴唱シ自己ノ狂意ノ儘ニ振舞フヲ以テ自然ノ權利ナリト妄想スルニ至ル否此類ハ恐ラクハ其多キヲ占ムルモノナルコトハ事實ニ於テ明著ナリ此点深ク各人ノ注意ス可キコトトス

第十八條 本條ハ臣民タルノ資格要件ハ法律ニ於テ規定スルモノナルコトヲ示シタルモノニシテ別ニ説明ヲ要セス

第十九條 本條ハ公權ノ一部ヲ規定シタルモノニシテ臣民ハ文武官登備規則

選舉法ノ如キ法律命令ニ規定セル資格ヲ具備スル以上ハ昔日ノ如ク

氏族門閥等ノ身分上ノ制限ナク均シク文武官ニ任用セラレ亦公務ニ就クコトヲ得ルモノトス

第二十條 本條ハ兵役ノ義務ヲ不公平ノ弊ナカラシムカ爲メニ法律ニ由リ制定スルモノト規定シタルモノニシテ臣民ハ獨立ノ國家ニ依リ其利益ノ保護ヲ受クル以上ハ其國家獨立ヲ保衛スルカ爲メニ兵役ノ義務否兵役ノ權利アルハ當然トス

第二十一條 本條ハ前條ト同シク國家生存上必要費ヲ分擔ヲ爲ス可キ義務アルヲ規定シタルモノニシテ其不公平ナカラシメンカ爲メ或ル標準ニ依リ分擔ス可キ方法ヲ法律ヲ以テ規定スルモノトセルナリ

第二十二條 本條ハ臣民ノ自由ヲ規定シタルモノ即チ民權シビル(ライツ)ノ一種ナリ往昔封建時代ニ於テハ臣民ニ對シ嚴法ヲ以テ或國境ヲ限リ居住セシメ認許ナクシテ旅行移轉スルコトヲ得サシメタルモ我國維新後ハ其自由ヲ制限スルコトナク此權利ヲ明ニ附與サレタリ然レトモ臣民ニ加害スル或種ノ刑餘者等ニ對シテハ臣民ノ利益保護上多少ノ制限ヲ加テ監視執行ノ如キヲ云フ亦或學者ハ徵兵現役中ノモノヲ

以テ自由權制限中ニアルモノト論スルモ之レ兵役ハ國家ノ獨立保衛ノ責務ヲ負擔シ居ルモノナルコトヲ忘却シタル論トス而シテ彼ノ往年施行セラレタル保安條例執行ノ如キ豫戒令執行ノ如キハ明カニ本條ノ權利ヲ制限セラレタルモノナリ其理論ニ至リテハ世既ニ定論アリ且亦其類ノモノハ其多クハ政策的ノモノニシテ法理上ノ問題ニアラストス

第二十三條 本條モ臣民ノ自由權ヲ確保シタル規定ニシテ則チ法律ニ據ルニ非ラサレハ自由ヲ束縛セラルコトナキモノトス往古ニ於テ此自由ヲ侵犯セラレタルコト事實ニ於テ明著ナリトス  
茲ニ議論ノ生スルハ此臣民ノ自由權ヲ剝奪スルニハ法律ニ依ルモノト規定サレタルヲ以テ彼ハ行政命令ヲ以テ處罰スルカ如キハ明ニ違憲ノ所爲ナリ何ントナレハ行政命令ハ法律ニ非ラサレハナリト云フ論者アリ之レ穿タサルハ甚シキモノニシテ行政命令ナレハトテ法律ヲ以テ或範圍内ニ於テ處罰スルノ權ヲ委與シタル時ハ其直接處罰ノ明文ハ行政命令ナルモ其實行政命令ニ委與シタル法律ニ依據スル



モノナリ然レトモ此委與ノ範圍ハ可成狹少ナランコトヲ希望ス  
 第二十四條 本條ハ臣民ノ司法權ニ對スル權利ヲ確保シタルモノナリ臣民ハ  
 法律民事訴訟法刑事訴訟法裁判所構成法等ニ於テ定メラレタル裁判  
 ヲ受クルヲ外彼ノ臨時裁判官其他委員等ノ如キモノ、裁判ヲ受クル  
 義務ナキコトヲ規定シタルモノナリ

第二十五條 本條ハ國家ノ警察權ニ對シ臣民ノ權利ヲ確保シタルモノニシテ  
 住居ノ安全ヲ侵サル、ニハ必ス法律ノ定ムル場合ニ於テ法律ニ定ム  
 ル手續ニ依ルニアラサレハ之レヲ拒絶スルノ權アルモノトス

第二十六條 本條ハ信書秘密權ヲ規定シタルモノニシテ信書ナルモノハ實ニ  
 近世文明ノ利器ナリ然ルニ之ヲ侵犯サル、モノトセン乎毫モ利器ノ  
 効ヲ爲サス故ニ法律ニ定ムタル場合(刑事 探証ノ如キ場合)ノ外決シ  
 テ侵サル、コトナキモノトス然レトモ臣民ハ單ニ憲法ノ明文ニノミ  
 依據スルコトナク各自ニ於テ信書ノ自由ヲ重シ其秘密ヲ侵犯サル  
 、區域ノ極ノテ狭小ナルニ務ム可シ

第二十七條 本條ハ臣民ノ所有權確定ヲ規定シタルモノニシテ所有權ハ各人  
 カ貴重スル身軀生命財產ノ一ニシテ而シテ往古國家ト臣民ヲ地主ト  
 小作トノ關係ノ如ク思ヒシ時代ニ於テハ臣民ニハ所有權ナキモノト  
 シ屢々此貴重ナル權利ヲ侵サレタリ今日ニ於テハ所有權ヲ侵犯スル  
 ナキヲ原則トスルモ或場合則チ公益ノ爲メニハ法律ノ規定土地収用  
 法ニ依リテ侵犯スルコトアリ然レトモ此公益ノ爲メニ此所有權ヲ侵  
 スハ往古ノ地主ト小作ノ關係ノ如キ類ニ非スシテ國家ノ成立上必要  
 ナル時ニ於テ之レヲ制限スルナリ則チ權利ハ總テノ權利ヲ云フ國家  
 成立シテ初メテ存在スルモノナルカ故ニ其成立上必要ナル時ハ之レ  
 ヲ制限スルナリ故ニ往古ノ如ク無償ニテ制限スルコトナク必ス其一  
 般不確定ノ損失ハ之レヲ除クノ損失ヲ補償スルナリ  
 此所有權ヲ制限スル重モナル法律ハ土地収用法ナリ我國ニ於テ明治  
 二十二年法律第十九號ヲ以テ之レヲ定メ明治三十三年法律第二十九  
 號ヲ以テ改正セラレタリ同法ニ依ルトキハ公益ノ爲メ必要ナルトキ  
 ハ其補償ヲ爲シ所有權ヲ不任意ニ収用スルモノニシテ若シ其補償ニ  
 不服ナレトキ、之レヲ定ムルニ公正ノ方法収用審査會ノ裁決ヲ以テ

シ猶ホ其方法ニモ服セサル時ハ訴訟ヲ提起シ得ルモノトセリ決シテ  
往昔ノ如ク國土物件ハ御上ノモノナリ之レカ與奪ニ對シ臣民ハ何等  
ノ不服ヲモ主張シ得スト云フカ如キ變風ノモノニアラス

第二十八條 本條ハ人心自由ヲ確保シタル規定ニシテ而シテ信教ハ人心ニ關  
シ國家ハ之レニ干涉ス可キモノニアラサルモ其心意外部ニ表彰セラ  
レタル行爲ニシテ安寧秩序ヲ妨グルカ如キアルトキハ國家ハ之レニ  
干涉スル亦當然ノコトトス

泰西各國ニ於テハ宗教ト政治ト混同シ其極信教ヲ以テ安寧秩序ヲ妨  
クルカ如キコト往々アリ我國ニ於テハ幸ニ斯ルコトナシ

第二十九條 本條ハ言論集會ノ自由ヲ規定シタルモノニシテ此權利ヲ得ルカ  
爲メニ各國歴史ニ於テ非常ニ奴力シタル事實アリ而シテ此權利ハ法  
律ノ範圍内ニ於テ自由ヲ有スルモノナリ唯茲ニ注意ス可キハ法律ヲ  
以テ之レヲ制限スルノ結果此自由權ヲシテ有名無實ニ終ラシムルノ  
虞アリ故ニ可成寛大ニシテ完全ノ自由ヲ得セシムルヲ以テ立憲政體  
ニ於ケル美政トス

第三十條 本條ハ請願權ヲ確認シタルモノニシテ此請願ハ立法ノ端緒トモ云  
フ可キ程ノ効果アルモノナルヲ以テ大ニ發達スルヲ希望ス然レトモ  
請願ヲ爲スニ相當ノ敬禮ヲ守ルヲ要スルハ勿論ナリ

第三十一條 本條ハ國家非常ノ際ニ於ケル臣民ノ權利ニ關スル規定ニシテ憲  
法第二章ニ規定シアル臣民ノ權利ハ平時ニ於テ之レヲ附與スルモノ  
ナルモ非常ノ際ニ於テハ天皇ノ大權則チ絶對無限ノ大權ニ依リ附與  
セサルコトヲ規定ス則チ元首ハ國家存立上臣民ノ權利一部ヲ犧牲ニ  
供スルナリ

第三十二條 本條ハ軍人ニ對スル規定ニシテ軍人ハ一般臣民ト異ニシテ特別  
ノ責務ヲ有スルモノナルカ故ニ憲法第二章ニ規定スル臣民權利ノ中  
其軍紀軍律ニ牴觸セサルモノニ限り之レヲ附與スルモノト規定シタ  
ルナリ

### 第三統治機關編

統治權ハ皇位ニ在リテ天皇ハ統治ノ主體タルコトハ天皇論ニ於テ既ニ説明セリ而シテ天皇ハ如何シテ其統治權ヲ行使スルヤハ本論ノ説明セントスル處ニシテ其設備機關ニハ國權行使ノ機關ト憲法上ノ統治權行使機關トノ二方面アリテ其國權行使機關ハ唯憲法上ノ統治機關ノミナラス天皇ノ大權ヲ以テ設備セラレタル百般ノ行政官府ヲモ吟有スルモノナリ憲法上ノ統治機關トハ憲法ヲ以テ設備セラレ憲法ニ依リ其權限ヲ制定シタルモノヲ云フナリ而シテ其我國ニ於ケル憲法上ノ統治機關ハ議會裁判所及政府ノ三者ナリトス則チ天皇ハ此三者ヲ以テ機關トシ統治權ノ或行使ハ必ス此機關ヲ通シテ行使スヘキモノトスルナリ彼ノ歐州立憲政體論ニ於ケル三權分立トハ之レヲ云フナリ然レトモ彼國學者ノ通俗ニ唱フル三權分立トハ統治權ノ外ニ獨互セル三權アルヲ云フナルモ茲ニ所謂ユル三權分立トハ統治權ノ一部ナル權利相立獨立ナルヲ云フナリ故ニ通俗ニ言フ三權分立ト茲ニ言フ三權分立トハ其意味ヲ異ニスルナリ而シテ統治權ノ或行使ハ必ス此機關ニ依リ行使セサルヲ得サルヲ以テ統治權ヲ分割シタルモノト誤解ス可カラス憲法ニテ其機關ニ依リ行使スルハ單ニ國權ヲ外部ニ表彰スル形式ニシ

テ統治權ハ決シテ分割セラル、コトナク完全無缺圓滿ノモノナリ以下此機關タル議會裁判所政府ニ付分論ス  
茲ニ一言附加シ置クヘキハ憲法ニ於テ其第三章ニ於テ帝國議會ヲ第四章ニ於テ政府ヲ第五章ニ於テ司法ヲ規定シアルヲ以テ憲法ノ順序ヨリセハ帝國議會編司法編政府編トシテ分論スルヲ適當トスルモ各章中其統治權ノ機關ニ關スル條項ト統治ノ作用ニ屬スル條項トアリテ彼是交雜スルヲ以テ此三章ヲ本編ニ同述スルモノトス

(一) 議 會

帝國議會ノ統治機關タルコトハ別段説明ヲ要セス亦別ニ異論ナキナリ歐洲ニ於テハ國會ヲ以テ或ハ統治ノ主體トシ或ハ統治ノ客體ト爲スモノアルモ之レ各國政體ノ異ナルト歴史上ノ關係ニ依ルモノニシテ我政體ニ於テハ議會ハ正サニ統治ノ機關タリ而シテ國會ノ制度ハ我帝國ニ實施サレタルハ晚近ノコトニテ往古ニ於テハ此制度ノアリシニアラス直言セハ泰西諸國ニ據シテ制定シタルモノナルカ故ニ其起源等ハ專ラ彼國ノ沿革ニ求メサルヲ得ス抑西國會ナルモノハ最初希臘及羅馬ノ諸國ニ於テ行ハレ若カモ此等原始社會ニ於ケル國會ハ人民自カラ

集會スル場所ニシテ今日ノ國會ト其性質ヲ異ニスルモノナルモノ之レ則チ國會ノ制度ノ濫觴ナリトス而シテ其代議ノ制度ノ行ハレシハ英國ジョン王ノ時ニ於ケルセントアルバンスノ會議ヲ以テ始メトシ市府民ヲシテ國會ニ參與セシメシハ英國ヘンリー三世ニ於テシ而シテ貴族及ヒ臣民全ク代表サレタルハ英國エドアルト一世ノ國會ヲ以テ祖始トス茲ニ注意ヲ要スルハ議會ハ國民ノ代表者ナリト云フヨトナリ之レ彼ノ歐州沿革上ヨリ來ルモノニシテ政治學上ノ論說トシテハ兎モ角法理上ヨリ云フトキハ議會ハ國民ニ對シテ代表關係アリト言フヲ得サルナリ何ニトナレハ國民ハ議會ヲ組織スル議員ヲ選舉スルコトニ參與スルト雖モ代理委任ノ關係ヲ生スルニ非サルナリ況ンヤ其撰舉ニ依ル議員ハ議會ノ一部ニシテ貴族院ノ如キハ撰舉ニ依ルモノニアラス加之議會ハ人民ノ有スル參政權ヲ代テ行フニアラスシテ議會ノ職權ハ國權ナリ唯國家ノ機關トシテ立法權ニ參與スルニ止ルモノトス

帝國議會ノ組織ハ憲法第三十三條ニ依リテ二局院法ヲ採用シタリ一院制二院制ノ得失ニ就テハ古來學者間ニ議論アリ然レトモ其得失ニ至リテハ其國ノ歴史及國體ニ依リ決定ス可キモノナリ然シナカラ之レヲ概言セハ貴族アル國及聯邦組

織ノ國ニ於テハ概シテ二院法ヲ採ルモノトス而シテ我帝國ニ於テハ貴族及ヒ國家ニ功勞アルモノ並ニ地方ニテ多額ノ納稅スルモノ、中ヨリ勅任シ組織スルヲ貴族院トシ其他ヲ衆議院ト云ヒ國民ノ選舉ニ由ル議員ヲ以テ組織ス其組織ノ詳細ハ貴族院令及ヒ選舉法ヲ參照ス可シ

茲ニ選舉ト云フハ從來普通ノ屬裡ヲ以テ解釋スル代表ヲ云フニアラス適任者ノ推選ヲ云フナリ則チ國家ノ公ナル職務ニ適當ナル人ヲ指示スル意味ニシテ決シテ國民ノ代理人ヲ出スノ義ニアラス一個人ノ利益ヲ代表スル人ヲ指示スルニアラス之レ大ニ普通人ト考ヲ異ニスル所ナリ

選舉方法ニ付テハ別段法律上ニ深キ關係ナキモ政治上ノ問題トシテハ隨分議論ノアル所ニシテ余亦一抱負アリ他日紹介スルノ時機アル可シ現行ニ於ケル方法ハ選舉法ヲ參照ス可シ

帝國議會ノ權限ハ立法及豫算ノ議定ニ參照スルヲ以テ重モナルモノトス而シテ議會ハ他ノ統治機關タル裁判所政府ノ如ク外部ニ對シテ國權ヲ行使スルニアラス其内部ニ於テ立法及ヒ豫算ニ參與スルモノトス而シテ議會ニ於テ此參與ナクソハ立法ナク豫算ハ不成立トナルナリ然レトモ議會ハ法律ヲ制定スルノ權アル

ニアラス唯主權者ノ立法手續ニ參與スルノミ亦議會ハ議會トシテ職權ヲ有スル  
 モノニシテ議員カ職權ヲ有スルニアラス而シテ議會ハ議會トシテ其職權ヲ行フ  
 ト雖トモ之レヲ採納スルト否トハ固ヨリ天皇ノ大權ニ屬スルモノナリ  
 政論家ハ議會ハ君主ノ專橫ヲ防止シ又行政ヲ監視スルモノナリト云フ之レ法理  
 上採用スヘカラサル議論ナルモ實際ニ於テハ其名跡アリ則チ君主々權ハ絶對無  
 限ノモノナルモ其之レヲ行使スルニ當リ君主ハ直接ニ其欲望スル儘ニ擅橫ヲ行  
 爲ヲ爲スヲ得ス何トナレハ憲法ニ由リ法律ヲ制定スルニ必ス議會ノ協贊ヲ要  
 シ勅令ヲ發スルニハ必ス國務大臣ノ副署ヲ要スルヲ以テ其不法(仮リニ)ヲ救正シ  
 得ルナリ亦議會ハ行政ヲ監視スルモノニ非サルモ其實直接ニ監視スルノ職權ア  
 ルニ非ザサルモ立法ニ參與シ又豫算ニ參與スルヲ以テ間接ニ之レヲ監視シ得ル  
 モノトス然レトモ之レ政治上ノ思想ニシテ法理上如斯理論ハ之レヲ容ルノ餘  
 地ナシ

議會ノ議決權ハ制限セラレタルヲ以テ原則トスルモ豫算ノ議定ハ現行法ニ依リ  
 制限セラル、モノトス則チ豫算ハ歳入歳出ノ見積ニシテ其歳入歳出ハ法律ニ依  
 リテ行フモノナルカ故ニ現行ノ法律ニ依リ拘束サルモノトス亦學者間ニ於テ

豫算ハ法律ナリヤ否ノ問題ニ付論難攻撃スル丁ルモ法律ハ國家ノ意思ノ表示ニ  
 シテ豫算ハ國家ノ歳入歳出ノ見積計算ナルコトヲ知ラハ別段喋々ヲ要スル程ノ  
 問題ニアラス

以上帝國議會ノ法理ヲ概論セリ仍テ帝國憲法ノ條項ニ付キ以下零解ス

第三十三條 本條ハ帝國議會ノ二院制ヲ採用シタルヲ表明スル規定ナリ而シ

テ此二院相互ノ職分ハ互ニ競合フヘキ性質ノモノニ非スシテ同一ノ  
 モノトス唯實際ニ於テハ一院ハ他ノ一院ノ過誤ヲ補正スルヲ以テ其  
 制度ノ美ヲ盡シタルモノトス

第三十四條 本條ハ貴族院ノ組織ヲ定メタルモノナリ此院組織ノ成立ニハ皇

族華族ハ條例貴族院令規定ノ條件ヲ具備スレハ議員タルヲ得ルモ功  
 勞博識者及多額納稅議員ノ如キハ勅任セラル、ニアラサレハ議員タ  
 ルヲ得ス又多額納稅議員ノ選舉ハ選舉ニ非スシテ推舉タルコトヲ注  
 意ス可シ其詳細ハ貴族院令ニ就テ研究ス可シ

茲ニ注意ス可キハ貴族院令ナルモノハ一種特別ノ性質ヲ有スルモノ  
 ナルコトナリ則チ該令ハ法律ニモ非ス亦勅令ニモ非サルカ如キモノ

ナリ同令第十三條ニ於テ將來此勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルト  
 キハ貴族院ノ決議ヲ經ヘシト規定スルヲ以テ其議會ノ協贊ヲ經ルノ  
 点ヨリ觀レハ法律タルカ如キモ若カモ衆議院ノ決議ヲ要セサルヨリ  
 論セハ法律タジス亦勅令トセハ議會ノ協贊ヲ要セサルモノトス故ニ  
 唯該令ハ一種ノ勅令ニシテ其改正變更ノ手續ヲ鄭重ニシタルモノナ  
 リト解スルヲ適當トス

**第三十五條** 本條ハ衆議院組織ノ大躰ヲ規定シタルモノニシテ其詳細ハ選舉  
 法ニ定ムルモノトセラレタリ之レ選舉方法ノ如キハ時運ノ變遷ニ依  
 リ改正變更ヲ要スルヲ以テ硬性的憲法憲法ノ變更手續ヲ普通立法手  
 續ヲ以テセサル法制ヲ云フニ規定スルトキハ其時運ノ變遷ニ依リ之  
 レカ改正變更ヲ爲サントスルモ其方法甚容易ナラサルヲ以テ之レヲ  
 憲法上ニ規定セスシテ別ニ法律ヲ以テ定ムルモノトセルナリ此選舉  
 方法ニハ普通選舉法一般ニ選舉權ヲ與フル方法有限選舉法選舉權ヲ  
 與フルニ或制限アル方法等種々ノ議論アルモ余ハ總テノ臣民ニ選舉  
 權ヲ與ヘテ而シテ其弊害ヲ除去スルノ方法アルヲ以テ完美ノモノト

信スルモ其弊害除去ノ方法ニ付未ダ發見シタルヲ聞カス規行選舉法  
 ノ如キハ普通人ハ多數選舉ナリトテ稱美スレトモ余ヲ以テセハ一應  
 多數選舉ノ如キ形体ニテ其實際ニ於テハ純然タル小數選舉ナリト斷  
 言スルヲ憚ラス諸氏ニ於テ須ラク此選舉方法ニ付キ深ク研究スルア  
 ラハ亦妙味ナル問題ヲ發見セム

**第三十六條** 本條ハ二院制ヲ採用シタル以上ハ其一院ニ於テ議員タルモノハ  
 他ノ一院ニ於テ議員タルコトヲ得スト規定シタルナリ

**第三十七條** 本條ハ議會ハ立法ニ參與スル職權アルコトヲ規定シタルモノニ  
 シテ立憲政躰ニ於ケル骨髓ナリ則チ法律ハ天皇ノ獨意ヲ以テ制定ス  
 ルヲ得ス必スヤ議會ノ協贊ヲ要スルナリ換言セハ其議會ノ協贊ナキ  
 モノハ勅令又ハ他ノ命令ト云フヲ得ルモ法律ト爲スヲ得ス且亦其一  
 院ニ於テ可トスルモ他ノ一院ニ於テ非トスルトキハ是亦法律タラサ  
 ルナリ而シテ其法律トス可キモノト法律トスヘカラサルモノトノ區  
 域ハ歐州ノ學說ニ於テハ國民ノ自由權利ヲ拘束スル性質ヲ有スルモ  
 ノハ法律トシテ制定スルヲ通則トス然レトモ我憲法ニ於テハ憲法上

ノ大權ノ外其區域ニ斯ル制限ナシ且亦我國從來ニ於テ法律ト云ヒ  
告示令ト云ヒ其區域判明セス頗ル煩雜ヲ極ム法治國ヲ以テ誇唱スル  
國体ニ於テ甚不面目トス

第三十八條 本條ハ立法ノ發議權ヲ規定シタルモノニシテ憲法ノ改正變更案  
ハ天皇ノ大權ニ屬スルモ其他ノ法律案ハ議會ニ於テモ發議スルコト  
ヲ得ルモノトセラレタリ

第三十九條 本條ハ前條ノ立法發議權ニ制限ヲ加ヘタルモノニシテ政府及ヒ  
兩議院ハ其一院ニ於テ可決シタル法律案ヲ同會期中ニ再ヒ發議スル  
ヲ得サルモノトス

第四十條 本條ハ建議權ヲ規定シタルモノニシテ政論家ノ所謂ユル行政監視  
ノ一ナリ則チ議會ハ立法ニ參與スルノミナラス政府ニ注意ヲ與フル  
爲メニ此建議權ヲ以テ行政ニ監視スルナリ然レトモ其採否ハ政府ノ  
權ナリ而シテ其採納セラレザリシモノヲ同會期ノ議會ニ再度建議ス  
ルヲ禁スルハ紛議又ハ脅迫ニ涉ルアルヲ豫防スルニアリ

第四十一條 本條ハ帝國議會ハ毎年召集閉會サルコトヲ規定シタルナリ而

シテ君主カ議會ノ召集ヲ怠リタル爲メ歐州ニ於テハ一大軋轢ヲ生シ  
タルコトアリ彼ノセームス一世ヤールス一世ノ如キ議會解散後其  
召集ヲ怠慢ニ付シタルカ爲メ大紛擾ヲ生シタルハ憲法史上顯著ナル  
モノトス我憲法ニ於テハ毎年必ス召集サルヲ以テ斯ル患ナシ

第四十二條 本條ハ開會ノ期間ヲ定メタルモノトス然レトモ議事課多ニシテ  
之レヲ延期スルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ相當期間延期スルコト  
ヲ得ルモ之レヲ短縮スルハ憲法ノ許サ、ル所トス

休會停會ノ如キハ期間ニ算入ス可キモノナルヤト云フニ會期ハ開會  
ノ日ニ始マリ閉會ノ日ニ終ルモノナルヲ以テ其間ニ於ケル休會又ハ  
停會ハ無論會期ニ算入ス可キモノトス我國議會ノ先例亦然リ

第四十三條 本條ハ定期召集ノ外必要アルトキハ臨時議會ヲ召集シ得ルコト  
ヲ規定シタルモノナリ而シテ第四十五條ノ解散ノ後召集シタル議會  
ハ臨時議會ナルヤ否ト云フニ此場合ハ法文ノ規定ニ依リ召集シタル  
議會則チ解散ノ結果當然開會サルヘキモノナルヲ以テ臨時議會ト云  
フヲ得ス又通常會トモ云フヲ得ス

第四十四條 本條ハ開會閉會停會延期及ヒ解散ノコトヲ規定シタルモノニシテ兩院ノ關係ハ二者相待ツテ議會ヲ爲スモノナルカ故ニ同一ニ其之レヲ行フモノトス而シテ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ單ニ停會スルモノトス之レ同院ハ其議院ノ多數世襲的或ハ終身的ニシテ永久ノ性質ナルヲ以テ解散スルヲ得サルナリ

議會解散ハ閉會中之レヲ行フコトヲ得ルヤト云フニ解散シ得ルモノトス然レトモ其未タ一回モ開會セラレシコトナキ議會ハ解散スルヲ得ス何ントナレハ議會ヲ解散スルハ議會ノ行爲輿論ニ反スルモノト認メタル時ニ於テ臣民ニ對シ反省ヲ求ムルモノナルカ故ニ其未タ召集セラル、ユトナキ議會ハ行爲ナキヲ以テナリ

第四十五條 本條ハ特別議會ノコトヲ規定シタルモノニシテ若シ此規定ナキトキハ事實上ニ於テ議會ヲ廢止スルノ結果ヲ生シ紛擾ヲ生セシムルヲ以テ各國ノ憲法ニ於テモ亦必要條項トシテ之レヲ規定ス

第四十六條 本條ハ開會及ヒ議決ノ効力ノ有無ヲ規定シタルモノナリ

第四十七條 本條ハ過半數ヲ以テ議事ヲ決スル常則ヲ示シタルモノナリ

第四十八條 本條ハ代議制度ニ於ケル公開主義ヲ規定シタルモノニシテ或場合則チ外交事件軍事事件又ハ治安ニ拘ハル件ハ其例外トシテ秘密會トスルコトヲ得ルモノトス

第四十九條 本條ハ上奏權ヲ規定シタルモノナリ第四十條ノ建議ト本條ノ上奏トハ均シク行政監視ノ一ニシテ其意見ヲ建白スル爲メニナスモノナルモ建議ハ政府ニ對シ上奏ハ天皇ニスルナリ

第五十條 本條ハ人民ノ請願權ヲ採否スルノ權ヲ規定シタルモノニシテ亦一種ノ行政監視立法ノ端緒タル方法ノ一ナリ

第五十一條 本條ハ議會ノ獨立ヲ維持スルカ爲メ其内部ヲ整理ス可キ諸規則ヲ制定シ得ルモノト規定シタルナリ

第五十二條 本條ハ議員ノ特權ノ一ナル言論自由權ヲ規定シタルモノニシテ院內ニ於ケル言論ハ院外ノ法延ハ勿論主權者ト雖トモ之レヲ如何ニトモスルヲ得ス然レトモ院內自治體ニ於テ相當紀律ヲ保ツカ爲メニ之レヲ處罰スルハ支障ナシ

第五十三條 本條ハ議員特權ノ一ナル捕縛自由權ヲ規定シタルモノニシテ彼



ノ立法權ノ行政權ニ對シ獨立ヲ全フスルカ爲メニ議員ヲシテ充分其職務ヲ盡サシムル爲メノ規定ナリ然レトモ國家ニ危害ヲ及ボス内亂外患ノ罪及ヒ政策ニ出テサル現行犯ノ如キハ例外タリ

第五十四條 本條ハ國務ニ責任アル國務大臣及ヒ政府委員ノ發言權ヲ規定シタルモノナリ

余ハ別ニ憲法規定ノ順序ニ依テ會計編ナル一編ヲ設ケ豫算及國家會計ノ法理ヲ説明スルヲ適當トスルモ憲法第六章ノ規定ハ其法理ニ關スルモノハ多クハ本編ニ關聯スルモノナルヲ以テ別論セス茲ニ其條項ニ付キ零解ヲ爲シ其責ヲ免カレントス

第六十二條 本條ハ公費ノ負擔義務ヲ定メタルモノニシテ租稅ハ人民ニ無益ノ負擔ヲセシメザランカ爲メ會計ノ監督ヲ嚴重ニスルヲ要スルヲ以テ新ニ租稅ヲ課スルハ法律ヲ以テ制定スルモノトシタリ然レトモ彼ノ手数料及收納金ハ個人カ特ニ政府ヨリ利益ヲ受クル報酬トシテ納メシムルモノナルヲ以テ一般普通ノ義務トシテ課スル租稅ト其性質ヲ異ニスルカ故ニ法律ニ依ルヲ要セス行政命令ヲ以テ定ムルコトヲ

得ルモノトセリ然レトモ實際ニ於テ其性質租稅ニ屬スルヤ將タ手数料タルヤ疑アルモノアリ大ニ注意ヲ要スルモノトス  
國債ハ臣民ノ負擔ヲ增加スルモノナルヲ以テ無論議會ノ協贊ヲ要スルモ稍疑義ニ涉ルハ彼ノ紙幣ノ如キハ議會ノ協贊ヲ要スルヤ否ニアリ紙幣ハ國債ト云フヲ得サルモ恰モ無利子ノ國債タルカ如キ觀アリ而シテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ償却スルモノナルヲ以テ毎年豫算ト共ニ其最高發行額ノ協贊ヲ求ムルヲ以テ穩當ナリトス

第六十三條 本條ハ此憲法實施ノ時ニ於ケル現行ノ租稅ハ法律ヲ以テ改正セサル以上ハ其効力アルモノナルコトヲ規定シタルナリ

第六十四條 本條ハ豫算ハ議會ノ協贊ヲ經ルモノナルコトヲ規定シタルモノニシテ之レ則チ立憲政體ノ要素ナリ而シテ議會ノ協贊ヲ爲シタル豫算ニ超過シタル支出ヲ爲シ及ヒ臨時ノ支出アルトキハ他日議會ノ承諾ヲ要スルモノトス此場合ニ議會ニ於テ承諾ヲ與ヘサルトキハ如何ノ結果ヲ生スルヤト云フニ其既ニ支出シタルモノハ致方ナキモ國務大臣ハ政治上ノ責ヲ負ハサルヲ得サルモノトス

第六十五條 本條ハ衆議院ノ豫算先決權ヲ規定シタルモノナリ其理由トスル  
トコロハ政費ハ臣民ノ負擔スルモノナルヲ以テ臣民ノ公選ニ依リ組  
織スル衆議院ニ密接ノ關係アルカ故ニ之レカ先決權ヲ有スルハ正當  
ナリト云フニアリ

第六十六條 本條ハ皇室費ノ規定ニシテ皇室費ハ一箇年三百万圓ニテ其増額  
ヲ要スルモノノ外容際ス可カラサルモノトス

第六十七條 本條ハ憲法ノ大權ニ基ケル既定ノ歳出明治二十三年法律第五十  
七號會計補則ノ如キ法律ノ結果ニ因ル歳出各般ノ恩給金會計検査院  
費等及ヒ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出國債利子會社ノ補助又ハ利  
子保證等ノ如キハ政府ノ同意ナクシテ排除削減スルヲ得サルモノト  
ス而シテ其同意ヲ求ムルニ付キ一院ニ於テセハ其効アルヤ且亦同意  
ノ結果官制ヲ改正消除スルヲ得ルヤ否ハ随分議論ノアルコトニテ現  
ニ帝國議會第一期ニ於テ爭點タリシナリ

第六十八條 本條ハ豫算ハ毎年編成ス可キモノト定メラレタル第六十四條ノ  
例外ノ場合ナル彼ノ繼續費ノ規定ナリ而シテ本條ニ付テハ種々議論

ノアルアリ則チ繼續費ハ中途之レヲ否決シ得ルヤ豫算ノ不成立ナ  
リシキハ繼續費ハ同シク不成立トナルヤ或ハ繼續費ノミ存在スルモ  
ノナルヤノ問題ナリ而シテ此問題ニ對シテハ甲乙共ニ其理由アリテ  
未タ歸一シタル確論アラサルモ余ハ繼續費ノ本來ノ性質ヨリ立論シ  
左ノ如ク論定セントス

(甲)繼續費ハ中途之レヲ否決シ得ルヤ否

此問題ニ對シテハ否決シ得サルモノト論定セサルヲ得ス其理由ハ深  
ク考究スルマテモナク繼續費ノ本來ノ性質ヲ論究セハ本問ハ亦明瞭  
ニ確定スルモノトス則チ繼續費ハ其年度内ニテ終了ヲ告クル能ハサ  
ルのノモノニ對スル費途ニ對シ其終了ニ至ルマテノ費途ニ付キ協賛  
ヲ求メタルモノニシテ其協賛ニ同意スルト同時ニ普通ノ豫算ト同様  
ノ取扱ヲ爲ス能ハサルモノニシテ若シ普通ノ豫算ト同一ニ取扱ハレ  
各年ニ於テ其成不成ヲ確定スルモノトセハ敢テ普通豫算ヨリ特別ノ  
モノトシ之レヲ繼續費トスルノ必要ナシ然ルニ其之レヲ普通豫算ヨ  
リ分離シ繼續費トシタル以上ハ其終了ニ至ル迄ハ之レヲ中途廢止ス

ルヲ得サルモノトス又廢止シ得ヘキトセハ其既ニ着手セシモノハ何等ノ効ヲ奏セス徒ラニ不用ノ國費ヲ消散スルニ至ルヲ以テ其國家的不經濟ナルハ勿論議會自カラニ於テモ甚定見ノナキ舉動ニシテ其憲政ノ美ヲ傷クルノミナラス屢々政府攻撃ノ爲メ或ハ政見反對者困窮策トシテ用ヒラル、ニ至ラン故ニ一端協賛ヲ爲シタル以上ハ繼續費ノ性質上之レヲ廢止スルヲ得サルモノト論定スルナリ

(乙)豫算成立セサル時ハ繼續費ハ不成立タルヤ否  
本問ニ對シテモ不成立タラスシテ繼續費ハ依然存在スルモノト論定ス而シテ其理由ハ(甲)ノ場合ニ於ケル理由ト同一ニシテ繼續費本來ノ性質上然ラサルヲ得サルナリ而シテ反對論者ハ其不成立ト爲ル理由トシテ曰ク繼續費ノ年々ノ費額ハ其年ノ豫算中ニ編入シ協賛ヲ求ムルモノナルヲ以テ其年ノ豫算ニシテ不成立トナル以上ハ年々使用ス可キ繼續費モ亦不成立トナルト然レトモ之レ甚甚斷ノ論法トス何ントナレハ繼續費ノ年々ノ費額ヲ其年々ノ豫算ニ編入シテ協賛ヲ求ムルハ他ノ普通ノ豫算ノ協賛ヲ求ムルト其理由ヲ大ニ異ニスルモノナ

リ則チ此場合ニ於テノ協賛ヲ求ムルハ其費途ニ向ツテ協賛ヲ求ムルニ非スシテ其年ニ於ケル支出費額ノ程度ニ付テノ協賛ヲ求ムルナリ其費途ニ就テノ協賛其財源ニ就テノ協賛ハ既ニ可決濟ノモノニシテ之レニ就キ再ヒ協賛ヲ要セサルナリ故ニ議會ハ其年ニ於ケル費額ニ付テハ増減變更シ得ルモ其根底ヨリ之レヲ不成立トスルヲ得サルモノトス

余ハ以上ニ於テ繼續費ハ中途廢止スルヲ得ス亦普通豫算ト同一ノ運命ヲ有スルモノニアラスト論定シタリ而シテ若シ其繼續費ヲ使用スヘキ事業ニシテ公義輿論ニ於テ絶對ニ不可ナルモノナルニ於テモ猶ホ之レヲ繼續ス可キモノナルヤノ反問アラソ實ニ然リ余ニ於テモ其企業ニシテ公義輿論上不可ナルモノトセハ之レヲ繼續スルハ甚其不可ナルヲ知ルノミナラス之レヲ繼續セサルヲ得サルモノトセハ是レ過ヲ強テスルモノニシテ必ス之レカ防備策アラサルヲ得ス余ハ斯ル場合ニ於テハ其企業者ハ公義輿論ニ反對シタル行爲ヲ爲シタルモノナレハ企業者ニ於テ其責任ヲ重シ相當ノ處置ヲ爲ス可キモノトス亦

社會ハ彼レニ對シテ其聲ヲ大ニシテ其不可ヲ主張シ企業者其責ヲ負ヒタル曉ニ於テ之レヲ廢止シテ可ナリ然レトモ同一味ノ議會組織議員ノ同一ナルヲ云フニ於テ曩キニ之レヲ可トシ協賛ニ同意シ而シテ後ニ之レヲ不可トシ廢止スルカ如キハ余ハ絶對的之レニ贊同スルヲ得ス

第六十九條 本條ハ第六十四條ニ規定セル豫算ニ超過シ又ハ豫算外ノ支出ヲ爲ストキノ財源ヲ規定シタルモノニシテ嘗テ議會ニ於テ協賛ヲ經タル豫備費ヨリ支出スルモノトシタルナリ

第七十條 本條ハ非常ノ際ニ於ケル財政上ノ非常處分ヲ規定シタルモノナリ則チ内外ノ事情ニ因リ議會ヲ召集シ得サルトキニ於テ國家ヲシテ危害ニ陥ラシムル恐アル場合ニハ專斷的處分ヲ爲シ得ルモノトス然レトモ次ノ議會ニ於テ必ス承諾ヲ求メサルヲ得ス若シ此場合ニ議會ニ於テ承諾ヲ與ヘサルキハ其既ニ爲シタル支出ハ無効ナラサルモ政府ニ於テ宜シク其責任ヲ負荷スルヲ正當トス

第七十一條 本條ハ豫算ヲ議定セス又豫算不成立トナリタル時ノ豫算方法ヲ定メタルモノニシテ前年度ノ豫算ニ依ルモノトシタリ之レ他ノ憲法ニ於テ多ク見サル所ナリ

第七十二條 本條ハ豫算決算ノコトヲ規定シタルモノニシテ議會ハ豫算ヲ議決スルノミナラス決算ヲ審査スルノ權能ヲ有スルモノトス其決算審査ノ準備ヲ爲スモノハ會計檢査院トス然レトモ會計檢査院ハ議會ノ機關ニアラス内閣ト議會ノ上ニ獨立スル天皇ノ大權ニ直屬スルモノナリ其權限組織ハ明治二十二年法律第十五號ニ就テ研究ス可シ

(二) 政府

通俗ニ政府ヲフトキハ總テノ行政官府ヲ云フモノ、如シ然レトモ行政官府ハ行政ヲ司リ政府ハ統治權ノ行使ヲ司ルモノニシテ憲法上ノ政府トハ通俗ノ意味ニアラス則チ政府ハ統治機關ニシテ憲法上ノ大權ノ行使ヲ爲スモノナリ而シテ此大權ハ此機關ヲ通シテ外部ニ行ハル、ナリ既ニ陳說スルカ如ク此ノ憲法上ノ統治權ハ議會ニ於テ其立法ニ參與シ政府ニ於テ其大權ノ行使ニ參與シ裁判所ハ司法權ノ行使ヲ爲シ此ノ三個ノ機關ニ依リテ行ハル、ナリ歐州學者ノ君主ト政府ト同一視シ君主ハ政府ノ長官ナリト云フカ如キハ我國憲ニ於テ許容ス可カラサ

ルモノトス我國憲ニ於テハ君主ハ政府ノ上ニ超然卓立シ其一部ヲ爲スモノニ非ラサレハナリ

我憲法上政府ヲ組織スルハ國務大臣ト樞密院顧問ナリ則チ此二者合同シテ政府ヲ組織スルナリ而シテ政府ハ天皇ノ大權行使ニ參與シ其大權ノ行使ヲ外部ニ發表スル機關タルナリ又政府ハ君主ノ命令ヲ拒ムノ權能ナク亦君主ノ命令ハ政府以外ニ施行セシムルコトヲ得サルモノトス  
國務大臣ハ天皇ヲ補弼シテ其責ニ任シ國務ニ關スル法令ニ副署ス則チ君主ノ發スル法令及詔勅ニ副署スルハ國務大臣カ之レニ參與シタルコトヲ外部ニ明カナラシムルナリ此大臣ノ副署ニ就テハ歐洲ノ學者間ニハ種々ノ異說アリテ副署ヲ以テ大臣ノ同意ヲ示スモノトシ大臣ハ副署ヲ拒ム權能アリト云フカ如キ學說ヲ爲スモ我帝國憲法ノ解釋トシテハ一顧ノ價値ナシ法令ハ君主ト大臣トノ同意約束ニ出ツルモノニアラスシテ君主ノ命令ナリ大臣ハ其命令ニ同意スルト否トニ拘ハラス副署ス可キ義務アルナリ若シ大臣ニシテ副署ヲ免カレントセハ唯其職ヲ辞スルノ一途アルノ外ナシ  
樞密顧問ハ天皇ノ大權ヲ行使スル最高ノ顧問府ナリ而シテ其國務大臣ト云ヒ樞

密顧問ト云フ皆天皇ヲ補弼スルハ二者同一ナルモ國務大臣ハ大權ヲ外部ニ對シテ行使スル責アルモ樞密顧問ハ内部ニ於テ天皇ノ諮詢ニ答ヒ意見ヲ奉ツルモノナリ唯其職權執行ノ形式ヲ異ニスルナリ

樞密顧問ハ重要ナル政務ヲ諮詢ニ答ヒテ議定ス而シテ其權限ニハ制限ナキモ其意見ノ採否ハ一ニ君主ノ任意ナリ

大臣責任問題ニ付テ一言セム歐洲ノ學者ハ大臣ハ君主ニ代ハリテ責任ヲ負フヘシト云フ然レトモ之レ誤謬ノ學說トス何ントナレハ君主ハ主權者ニシテ而シテ其主權ハ絶對無限ノ權利ナリ君主ハ決シテ責任ヲ有セス其責任ヲ有セサル主權ノ行使ヲ爲スカ爲メニ大臣ニ其責任アルト云フカ如キハ矛盾甚シキモノトス果シテ然ラハ國務大臣ハ責任ナキヤト云フニ國務大臣ハ補弼ノ任アルヲ以テ補弼ノ責アルハ勿論ニシテ其責任タルヤ君主ニ對シテ責任ヲ有スルナリ  
以下憲法條項ニ付キ畧説ス

第五十九條 本條ハ國務大臣ノ補弼責任及ヒ法令副署ヲ規定シタルモノニシテ此大臣責任ニ關シテハ既ニ本編ニ於テ論シタルカ如ク法理上ヨリ云フトキハ天皇ニ對スル補弼ノ責任ニテ其他議會ニ對シ又ハ國民ニ

憲法條文

對スル責任ニアラス然レトモ政治上ヨリ論スルモノハ本條ヲ以テ直  
 カニ國務ニ關シ國民ニ對スル責任ノ如ク解釋シ君主無責任大臣責任  
 主義トモ云フ可キ政策的ノ論ヲナスアリ此說ニ由ルトキハ君主ハ無  
 責任ナリ而シテ大臣モ無責任ナリトセハ何人カ國民ニ對シテ其責任  
 ヲ負フ可キヤト云フヲ論據トスルカ如シ然レトモ之レ君主ハ主權ノ  
 主體タルコトヲ忘却シタルモノニシテ今政策家主張ノ如クセハ君主  
 主權者タラスシテ國民カ主權ノ主體タラハいざ知ラス其君主カ主權  
 者タル以上ハ如斯論說ハ法理上許容ス可キモノニアラス

尙政策的論法トシテ大臣責任論ノ結果其責任ヲ負ハシムル方法トシ  
 テ彈劾法トカ裁判法或ハ更迭法等アルナド喋々論議スレトモ此等ハ  
 政治上ノ問題ニシテ憲法々理上何等ノ關係ナシ

又大臣副署ニ付テモ副署ニ責任ヲ有スルヲ以テ副署ヲ拒ム權アリ又  
 大臣ノ副署責任ハ單獨ナルヤ將連帶ナルヤノ問題ニ付キ隨分議論ア  
 ルコトナレトモ已ニ屢々論スルカ如ク大臣ハ副署ヲ拒ムノ權能ナク  
 唯止ムヲ得スンハ辭職ノ一事アルノミ又其副署責任ハ無論連帶責任

ナルヲ穩當トス然レトモ之亦政治上ノ問題ニシテ法理上ノ議題タラ  
 ス

第五十六條 本條ハ國務重要ノ件諮詢ニ對シ審議ス可キ樞密院ノコトヲ規定

シタルモノナリ

(三) 裁判所

裁判所ハ統治機關ノ一部ニシテ主權ノ一部ナル司法權ヲ行使スル機關タリ茲ニ  
 注意ヲ要スルハ司法權ノ獨立ナル問題ナリ今皮想ノ見解ヲ以テセハ司法權ノ獨  
 立トハ統治權ノ外別ニ司法權ナル一種ノ大權卓立スルカ如キ感アルモ決シテ然  
 ラス司法權ハ統治權ノ一部ニシテ其獨立トハ行政官ノ指揮容喙ヲ許サスト云フ  
 ノ意味ナリ而シテ裁判所カ司法權ヲ行使スルニハ一ニ法律ニ依ルモノトス則チ  
 君主ノ命令ヲ以テ拘束スルヲ得サルナリ之レ亦司法權獨立ノ事實ナリ而シテ裁  
 判所ノ構成ハ他官制ノ如ク勅令ヲ以テ定ムルヲ得ス必ス法律ヲ以テ定メサルヲ  
 得サルモノトス是亦事實上ニ於テ暗ニ行政ノ容喙ヲ豫防シタルナリ以下此司法  
 權ニ關スル憲法ノ條項ヲ畧解ス

第五十七條 本條ハ正理公道ヲ以テ臣民ノ權利ヲ判斷スル司法權ヲ司ル統治

機關ノコトヲ規定シタルナリ

第五十八條 本條ハ彼ノ司法權獨立ノコトヲ規定シタルモノナリ

第五十九條 本條ハ正理公道ヲ保ツ爲メ裁判ノ公開主義ヲ採用シタルコトヲ

規定シタルモノナリ

第六十條 本條ハ普通裁判所則チ民事刑事裁判所ノ外軍事等ノ如キ特別裁判

所ノコトハ別ニ法律ニ依リ規定スルモノトセルナリ

第六十一條 本條ハ司法權ニ對シ行政權ノ獨立ナルコトヲ規定シタルナリ

### 第四統治權ノ作用編

憲法ハ前陳スルカ如ク主權ノ本體ト其作用トヲ規定スルモノナリ然ルニ從來ノ學者憲法論トシテハ國家ノ組織ヲ主論シ統治權ノ作用ハ之レヲ行政法ニ於テスルノ傾向アリ而シテ此憲法ト行政法トノ區別ニ至リテハ古來ヨリ學者間ニ於テ種々ノ異論アリテ未タ實質的ニ正確ノ定義ヲ與ヘタルモノナシ其結果統治權ノ作用ノ如キハ多ク没シテ行政學ノ區域ニ講學スルカ如シ然レトモ憲法ト行政ト

ハ劃然其間ニ區別ノ存スルアリテ憲法ハ統治權ノ主體機關及作用ノ形式ヲ規定シ行政法ハ憲法ニ規定セル機關ノ分配ヲ受ケテ行働スル機關ノ組織權限及其形式ヲ規定セルモノナリ故ニ憲法上ノ統治權ノ作用ト行政法上ノ作用トハ亦區別シテ論サセルヲ得ス仍チ本編ニ於テハ其憲法上ノ統治ノ作用ヲ畧説スルモノトス然レトモ本編ヲ説明スルニ當リ往々統治權ノ主體及機關ニ論及セサルヲ得サルノ結果ヲ生スルヲ以テ或ハ重複ニ渉ルノ恐アルモ説明上詮方ナシ

既ニ統治權主體編ニ於テ説明シタルカ如ク我憲法上ノ統治權トハ主權ノコトニシテ歐洲學者ノ唱導スルカ如ク主權ト統治權トハ別異ノモノニハ非ス又統治權ハ最高比較的ニアラスノ唯一權力ニシテ彼ノ三權分立論者ノ如ク權力ノ集合ニアラス全能獨立ノ永久無限ノ權力ナリ而シテ統治權ノ作用トハ統治權ノ行使カ或機關ニ依リ如何ニ働作ヲ爲スヤノ形式ヲ云フナリ今憲法上ヨリ此形式ヲ區別スレハ左ノ四形式ニ區別シ得ルモノトス

(一) 憲法上ノ大權

(二) 立法

(三) 司法

(四) 行政

以上ノ四形式ニ付キ分論セム

(一) 憲法上ノ大權

憲法上ノ大權トハ君主カ親裁スル政務ノ範圍ヲ云フモノニシテ他ノ統治機關ニ依リ行使セラレサルモノヲ云フ換言セハ統治權ノ行使ヲ司法議會等ノ機關ヲ經由セスシテ天皇ノ大權トシテ親裁シ玉フモノヲ云フ或論者ハ此大權中ニ普通ノ行政事務ヲ包含スルカ如ク主張スルモノアルモ普通行政事務ハ行政法ノ範圍ニ屬スルモノニシテ憲法ノ範圍内ニアラス此等ノ行政事務ハ君主ノ官制權ニ依リ自由ニ處分シ得ルヲ以テ事實上大權ト同一ノ形狀アルモ官制ニ依リ行政事務ヲ分任スルハ其官府ノ權限ニテ憲法上ノ大權ニアラス之レ憲法上ノ大權ト行政法ト岐ル、所ナリ

如上統治權ハ全能ノモノナルヲ以テ統治權ノ外ニ憲法上ノ大權ナルモノヲ認ムル必要ナキカ如シ則チ統治權ハ天皇ニ屬スルモノナルヲ以テ其一部分ヲ憲法上ノ大權ト稱スルカ如キハ不都合ナルカ如シ然レトモ既ニ憲法ニ於テ統治權ヲ行使スル方法ヲ定メ或部分ハ之レヲ憲法上ノ機關議會裁判所ノ如キヲ云フニ委シ

或部分ハ憲法上ノ大權トシテ他ノ容喙ヲ許サズ君主ノ專斷ニテ行使スルモノトシタル以上ハ憲法上ノ大憲ナルモノヲ認ムルヲ適當トス而シテ此大權ニ屬スルモノハ憲法ヲ通讀セハ自カテ明瞭ナレハ逐一之レヲ明示セス

茲ニ注意ヲ要スルハ歐洲學者ノ唱フル君主特權ナルモノト此憲法上ノ大權トハ同一性質ノモノニ非サルコトナリ歐洲ニ於ケル君主特權トハ統治權主體ノ誰人ニ存在スルモノナルヤノ如何ニ依リ我國憲ト其論點ヲ異ニスルヨリ生スルモノニシテ彼國ニ於テハ沿革上統治權ハ君主ト議會ニアリトスルヲ以テ君主ハ別ニ其統治權行使上一ノ特權ヲ有スルモノ、如ク主唱スルニ至レルナリ然レトモ我國憲ニ於テハ君主ハ則チ統治權ノ主體ニシテ亦統治權行使ノ主體タルヲ以テ憲法上ノ大權ヲ以テ特權ト稱スルカ如キ論議ヲ爲スノ必要ナキナリ

(二) 立法

歐洲ノ立法論トシテ立法ノ主體ハ國會ナリト説明スルモ我國憲ニ於テハ此說ハ採用ス可カラサルモノトス我國憲ニ於テハ立法權ノ主體ハ天皇ニシテ議會ハ唯憲法上之レニ參與スルニ止ルナリ則チ天皇カ立法權ヲ行使スルニハ憲法上必ス議會ノ協贊ヲ要スルナリ議會ハ立法權ノ主體トシテ參與スルニアラスシテ立法

憲法上ノ大憲 立法



權ノ機關作用トシテ參與スルモノトス而シテ立法ハ必ス此議會ノ協賛ヲ要スルモノニシテ協賛ナクンハ立法ナキナリ立法ナル語辭ハ常ニ人ノ行爲ノ準則ヲ云フモノナルモ茲ニ所謂ユル立法トハ法律トシテ國家ノ意思ヲ發表スルヲ云フナリ

而シテ茲ニ大ニ着意ス可キハ法律ト命令ノ區別ナリ其法律ト云ヒ命令ト云フ均シク國家ノ意思ノ表示ニシテ唯國家ノ意思ノ表示カ法律ナル特別ノ形式ヲ具備セサル可カラサルヲ法律ト云フナリ歐州ノ學說トシテハ國法ニシテ人ノ權利自由ニ關スルモノハ法律トシテ制定スルモノトシ而シテ法律ハ國會ノ協賛ヲ要スルモノトシ立法ハ國會ノ協賛ヲ要スト論定ス然レトモ之レ法律命令ノ區別ヲハ人ノ權利自由ヲ規矩トシテ論定シタルモノニシテ我憲法ノ採ラサル所ナリ我憲法ニ於ケル法律ト命令トノ區別ハ如斯實質的ノ區別ニアラス單ニ形式的ノ區別タルナリ則チ法律モ命令モ均シク國家ノ意思ノ表示ニシテ實質上區別アルニアラス唯法律ハ議會ノ協賛ヲ經由スルニ非ラサレハ法律ナル形式ヲ具備シ國家ノ意思ヲ發表スルヲ得スト云フニ止ル其實質上ノ効力ニ至リテハ二者共ニ甲乙ナク臣民ハ服從セサルヲ得サルナリ其間ニ強弱輕重ノ區別アルニ非ス唯其形式的

効力トシテ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得スト云フ一般的原则アルノミナリ歐州ノ學說トシテハ憲法ヲ以テ法律ノ一種トナシ法律ハ國家最高ノ意思ナリト説明スレトモ我國憲ニ於テハ憲法ハ無論國家ノ意思ナルモ法律命令ノ外ニ猶ホ憲法ナル最高法則アリトセルナリ故ニ法律命令共ニ憲法ノ制限ノ下ニ於テ國家ノ意思ヲ表示スルモノトス

亦法律ト憲法上ノ大權トハ區別スルヲ要ス歐州ニ於テハ上如法律ハ最高萬能力ヲ有スルモノトスルカ故ニ法律ヲ以テ規定シ得サルコトナキモ我國憲ニ於テハ法律ヲ以テ憲法上ノ大權ヲ侵スコトヲ得ス又大權ヲ以テ法律ヲ侵スコトヲ得サルモノトス即チ二者ノ間ニハ劃然區別アリテ互ニ侵犯スルヲ得サラシム亦前陳スルカ如ク法律ト命令トハ其實質的効力ハ其間ニ強弱輕重ノ等差アルコトナキモ其形式的効力トシテハ命令ハ法律ヲ以テ變更シ得ルモノトス然レトモ其命令中ニテモ大權事項ハ法律ヲ以テ變更シ得サルモノトス

命令ノ法理論トシテハ歐州學者間ニ二說アリ其一ハ命令ハ法律ヲ執行スル範圍内ニ於テスルモノナリト他ノ一說ハ法律ヲ變更セサル限リニ於テ命令ヲ發シ得ルモノナリト而シテ我國憲論トシテハ第二種說ヲ採用セサルヲ得ス則チ命令ヲ

以テ法律ヲ執行スルノミナラス其法律ヲ變更セサル限リハ如何ナル事項ニテモ命令ヲ發シ得ルモノトス而シテ天皇カ命令ヲ勅裁シ玉ヒ親署ヲ經テ發スルモノヲ勅令ト云ヒ之レヲ行政機關ニ委シテ發セシメラル、モノヲ閣令省令又ハ府縣令等ト云フカ如シ然レトモ其發表形式ノ異ナルニ拘ラス臣民ハ一般ニ遵由スル効力アルモノトス  
猶ホ此命令ハ之レヲ區別スレハ

(甲) 大權命令

(乙) 法律ニ代ル命令

(丙) 行政命令

ノ三種ニ分説スルヲ以テ理解上便利トス

甲) 大權命令

大權命令トハ憲法上君主カ必ス親裁スルコトヲ定メタル事項ニ依リ發スル命令ニシテ法律ヲ以テ變更シ得サルモノトス之レ彼ノ法律ヲ以テ命令ヲ變更シ得ルトテフ原則ニ對シ獨立スル命令ナリ而シテ此制度ハ他ノ國体ニハ之レヲ認メス我國憲ノ特質ナリトス

(乙) 法律ニ代ハル命令

法律ニ代ハル命令トハ憲法上立法事項ニ屬スルモノヲ命令ヲ以テ規定スルヲ云フ彼ノ緊急勅令則チ之レナリ此命令トハ其範圍ヲ異ニシ大權命令ハ憲法上ノ大權事項ニ付テノ命令ニシテ法律ヲ以テ變更スルヲ得ス法律ノ範圍ト全然別異ノモノタリ然ルニ緊急勅令ハ其範圍法律事項ノ範圍ニ屬スルモノニシテ一時便宜ノ爲メ命令ヲ發シ得ルモノナルガ故ニ法律ヲ變更スルヲ許サス而シテ此命令モ我國憲特質ノモノニシテ他ノ國体ニ於テハ見サルモノナリ尤モ他國体ニ於テ我緊急勅令ヲ發スルヲ要スルカ如キ場合ニハ憲法違反ノ行爲タルニ拘ラス當局者ニ於テ他日ノ責任ヲ負荷スルヲ覺悟シテ此類ノ命令ヲ發スルアリ亦特別立法ノ權ト稱シ此權ヲ政府ニ委シタルモノナリトシ法律ニ代ハルノ命令ヲ發スルアリ然レトモ我國憲ニ於テハ憲法ノ規定ニ依リテ發スルモノニシテ歐洲學者ノ如ク違憲行爲ニモ非ス又立法ノ變例ニモアラス全然憲法上一種ノ命令ナリ

(丙) 行政命令

行政命令トハ憲法第九條ニ規定スル命令ニシテ(一)大權命令(二)法律ニ代ハル

命令以外ニ於テ法律ヲ變更セサル範圍内ニ於テ行政ノ爲メ發スル命令ヲ云フ此命令ヲ以テハ法律ヲ變更スルヲ得サルハ勿論大權命令及緊急命令ヲモ變更スルヲ得サルモノトス而シテ此種ノ命令ハ我憲法ニ依ルトキハ左ノ三種アルモノトス

(イ) 法律規定ヲ執行スル命令

(ロ) 社會ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ發スル警察命令

(ハ) 社會ノ公益ヲ増進スル爲メニ發スル公益命令

(三) 司法

司法トハ法律ヲ特定事項ニ適用スルコトヲ司ル作用ヲ云フ然レトモ其實質的ノ定義ヲ下スコトハ甚タ難シ大体ニ於テハ立法ハ法令ヲ發シ行政ハ法令ノ範圍内ニ於テ行政シ司法ハ法令ヲ或特定事實ニ適用スルモノト解シテ可ナリ而シテ司法權ハ統治權ニ對シテ獨立ナル權利ニアラス統治權作用ノ一部ナリ彼ノ三權分立論者ノ主張スルカ如キモノニアラス我國憲ニ於テ司法權獨立トハ唯行政ニ對シテ言フモノニシテ則チ行政權ノ容喙ヲ許サトルヲ意味スルナリ

(四) 行政

行政法ハ憲法ノ範圍外ニシテ行政學ニ於テ論究ス可キモノナルヲ以テ茲ニハ之レヲ省略ス然レトモ余ハ本編ノ終リニ於テ猶ホ天皇ノ大權事項ノ一ナル條約ニ付テ一言スル亦無用ノコトニアラストス

(五) 條約

條約トハ外國ニ對スル國家ノ意思ノ表示ナリ則チ法律命令ハ共ニ國家ノ統治權行使ノ區域内ニ於ケル國家ノ意思ノ表示ニシテ條約ハ獨立國間ニ於ケル國家ノ意思ノ表示ナリ而シテ我國憲ニ於テハ條約締結權ハ天皇ノ大權ニ屬スルモノトス歐洲ニ於テハ或ハ議會ノ協贊ヲ要スルモノトシ或ハ議會一部ノ決議ヲ要スルモノトセルモ我國憲ニ於テハ全然他ノ容喙ヲ許サハルモノトス條約ト法律又ハ命令トノ關係ハ憲法々理論トシテハ生スルコトナシ則チ條約ハ權力平等間ニ締結セル約束ナルモ法律命令ハ權力服從ノ關係間ニ於ケル命令ナリ條約ハ外國ニ對スルモノニシテ法律命令ハ内國ニ對スルモノナリ換言セハ條約ト法律命令トハ其形式ト其對手ヲ異ニスルヲ以テ關係ヲ發生スルコトナシ然レトモ之レヲ國內ニ公布セラレタルトキハ條約トシテハ何等ノ効力ナキモ條約事項ヲ遵守ス可シト云フ命令トシテハ臣民ハ之レヲ遵守スルノ義務アルモノト

ス其他條約ニ付キ種々論究ヲ要スルアルモ國際法ニ於テスヘキモノナルヲ以テ  
省略ス

以上ニ於テ余ハ我國憲ノ大畧ヲ通論シタリ而シテ其詳細ノ事項及ヒ政治上ノ意  
味ニ於ケル國憲行政學ノ範圍ニ涉ル國憲國際法上若クハ社會學上ニ於ケル國憲  
政論家トシテノ國憲ハ別論トシテ他日紹介スルノ機會アラム

國憲通論終

明治三十四年一月卅一日印刷  
明治三十四年二月拾日發行

著者兼  
發行者

渡邊 久米太郎

金澤市南町九十二番地

印刷者

沓 木 政 勝

金澤市南町三十二番地



1

特45

471

国憲通論

国立国会図書館

031571-000-4

特45-471

国憲通論

渡辺 久米太郎 / 著

M34

BBE-0190

